

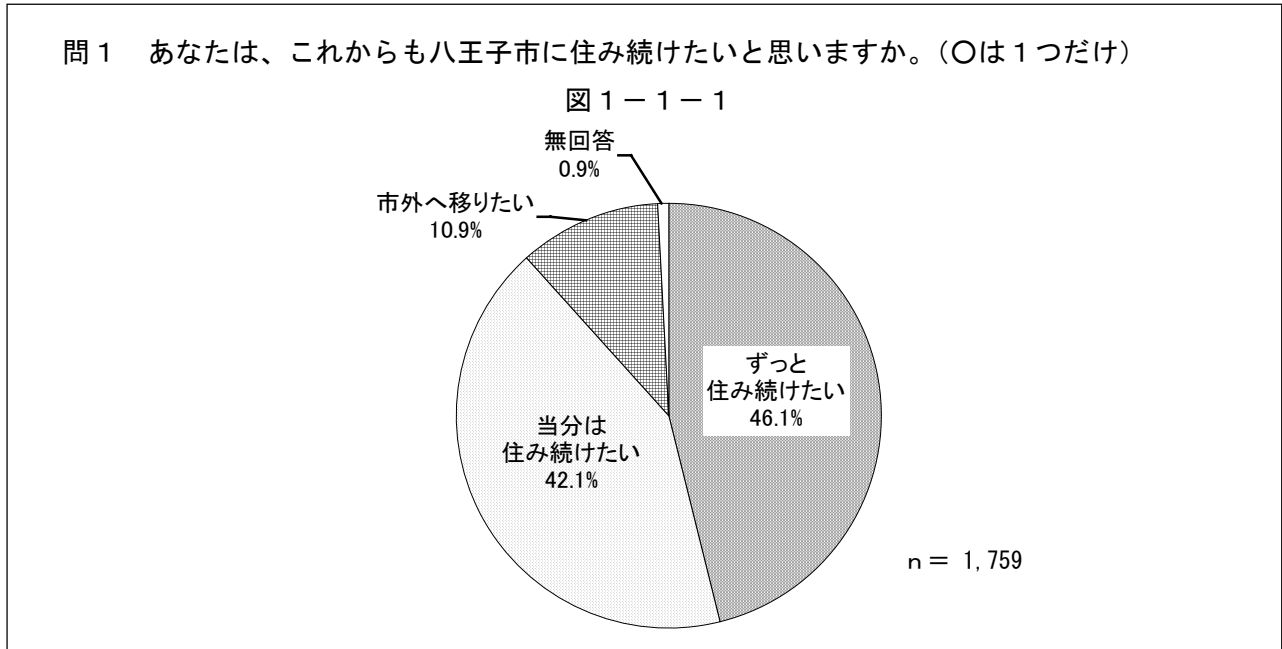
Ⅱ 調査結果の分析

第1章

1. 定住意向

1-1 定住意向

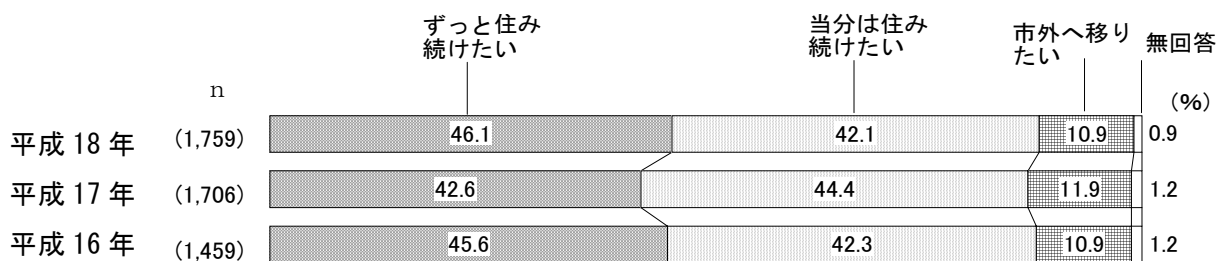
◇『住み続けたい』が9割近く、「市外へ移りたい」が1割強



市への定住意向について聞いたところ、「ずっと住み続けたい」が4割台半ば(46.1%)と最も高く、「当分は住み続けたい」(42.1%)と合わせた『住み続けたい』は9割近く(88.2%)を占める。また、「市外へ移りたい」は1割強(10.9%)にとどまっている。(図1-1-1)

過去の調査と比較すると、今回は平成17年より「ずっと住み続けたい」は3.5ポイント上昇し、「市外へ移りたい」は1ポイント減少している。なお、『住み続けたい』は、平成17年より1.2ポイント上昇しており、今回も9割近く(88.2%)と高い水準を維持している。(図1-1-2)

図1-1-2 定住意向一経年比較

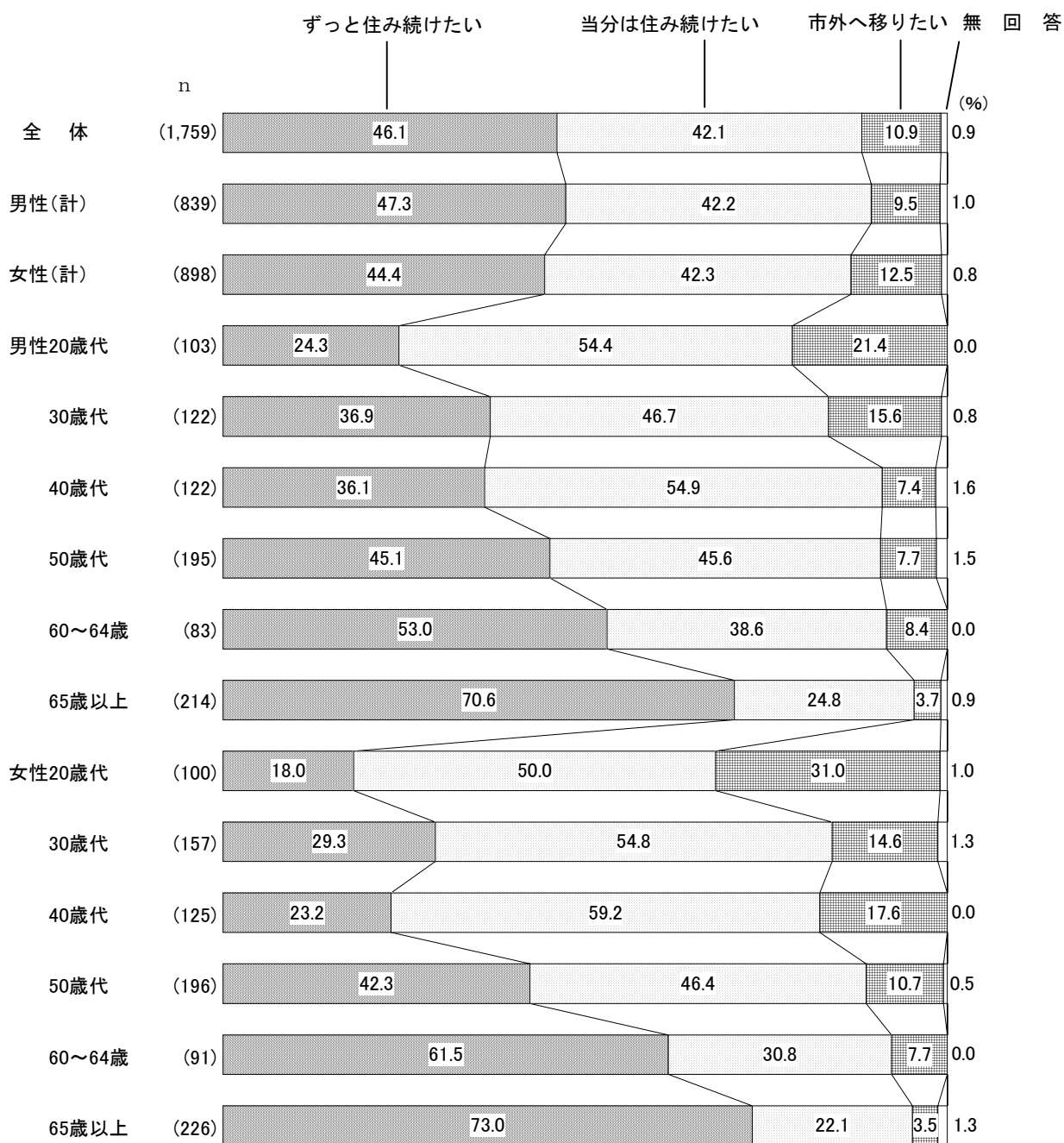


性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向となっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性 65 歳以上と女性 65 歳以上の年代においては、男女ともに 7 割以上と高くなっている。

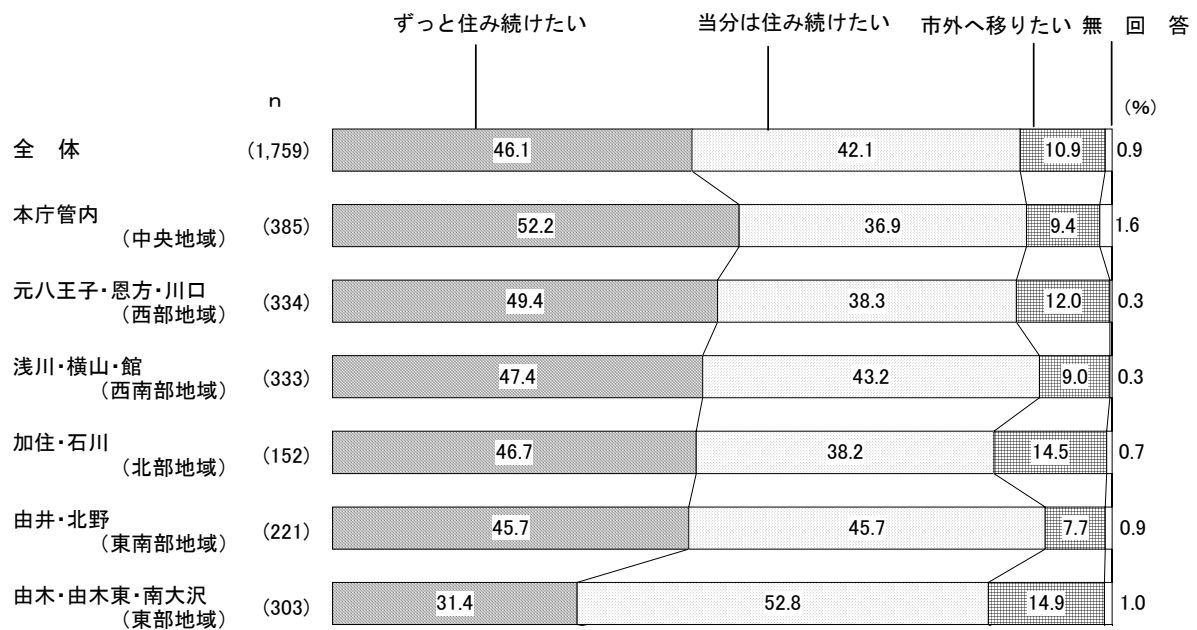
また、「市外へ移りたい」は男性 20 歳代と女性 20 歳代の年代で 2 割以上と、他の年齢層と比べ高くなっている。(図 1-1-3)

図 1-1-3 定住意向一性・年齢別



居住地別にみると、『住み続けたい』はすべての地域で8割以上を占め高くなっている。また、「ずっと住み続けたい」は本庁管内（中央地域）が半数を超え高く、これに元八王子・恩方・川口（西部地域）が僅差で続いている。一方、由木・由木東・南大沢（東部地域）は3割（31.4%）と、他の地域が4割台半ばを超えているのに比べ、低くなっている。（図1-1-4）

図1-1-4 定住意向－居住地域別



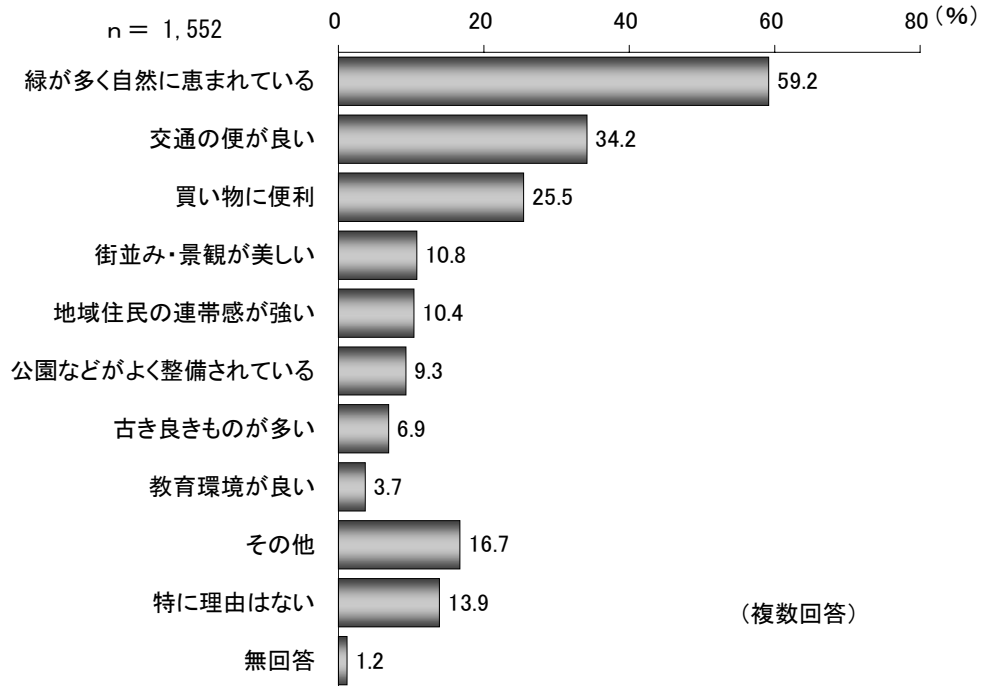
1-2 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」がほぼ6割となり、突出している

(問1で「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分は住み続けたい」とお答えの方に)

問1-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図1-2-1

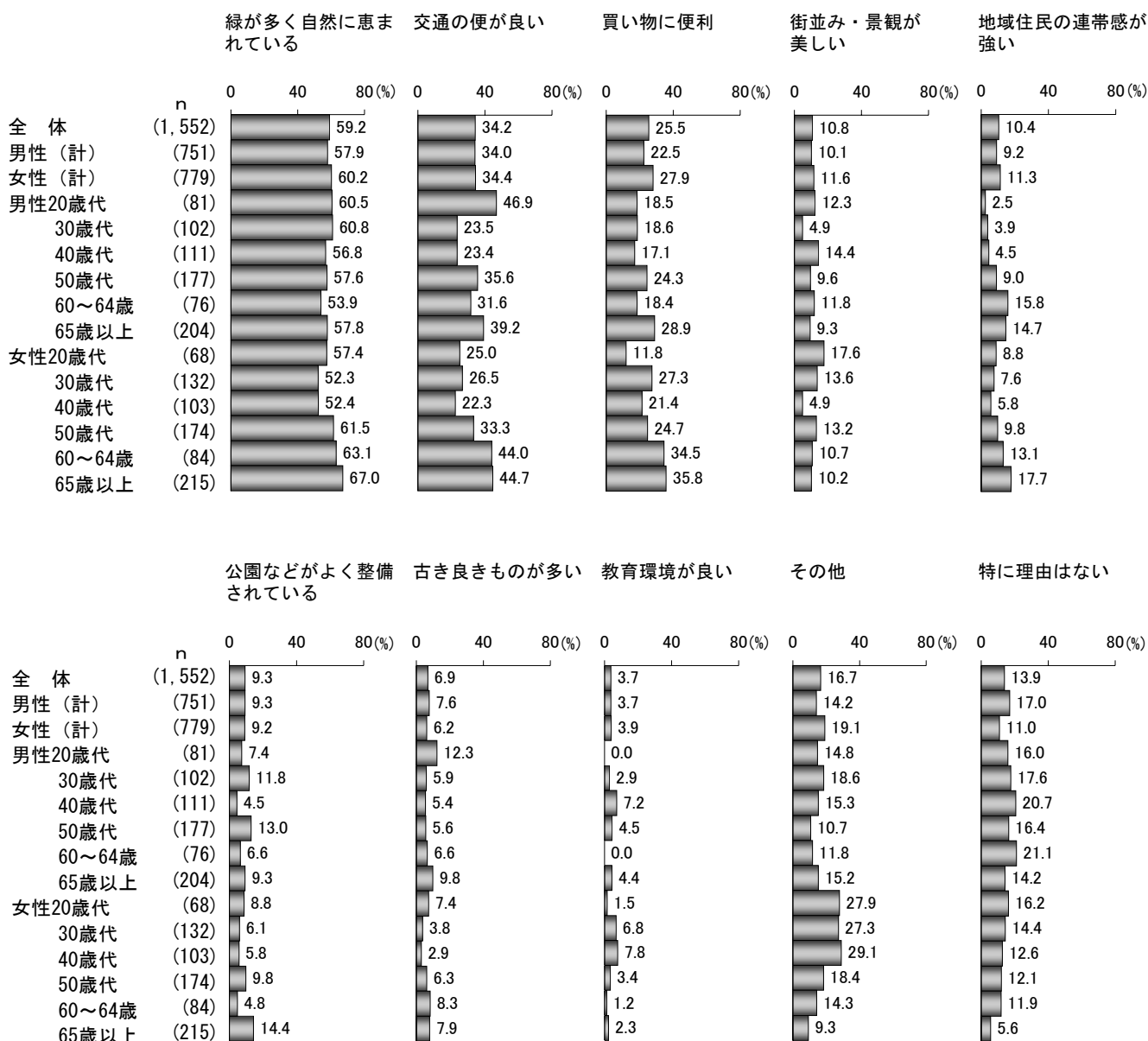


八王子市への定住意向で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と答えた人(1,552人)に、住み続けたい理由について聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」が6割近く(59.2%)と最も高く、ついで「交通の便が良い」(34.2%)、「買い物に便利」(25.5%)、「街並み・景観が美しい」(10.8%)と続いている。(図1-2-1)

性別にみると、女性は「買い物に便利」が男性よりも5.4ポイント高い。一方、男性は「特に理由がない」が女性に比べ、6.0ポイント高くなっている。

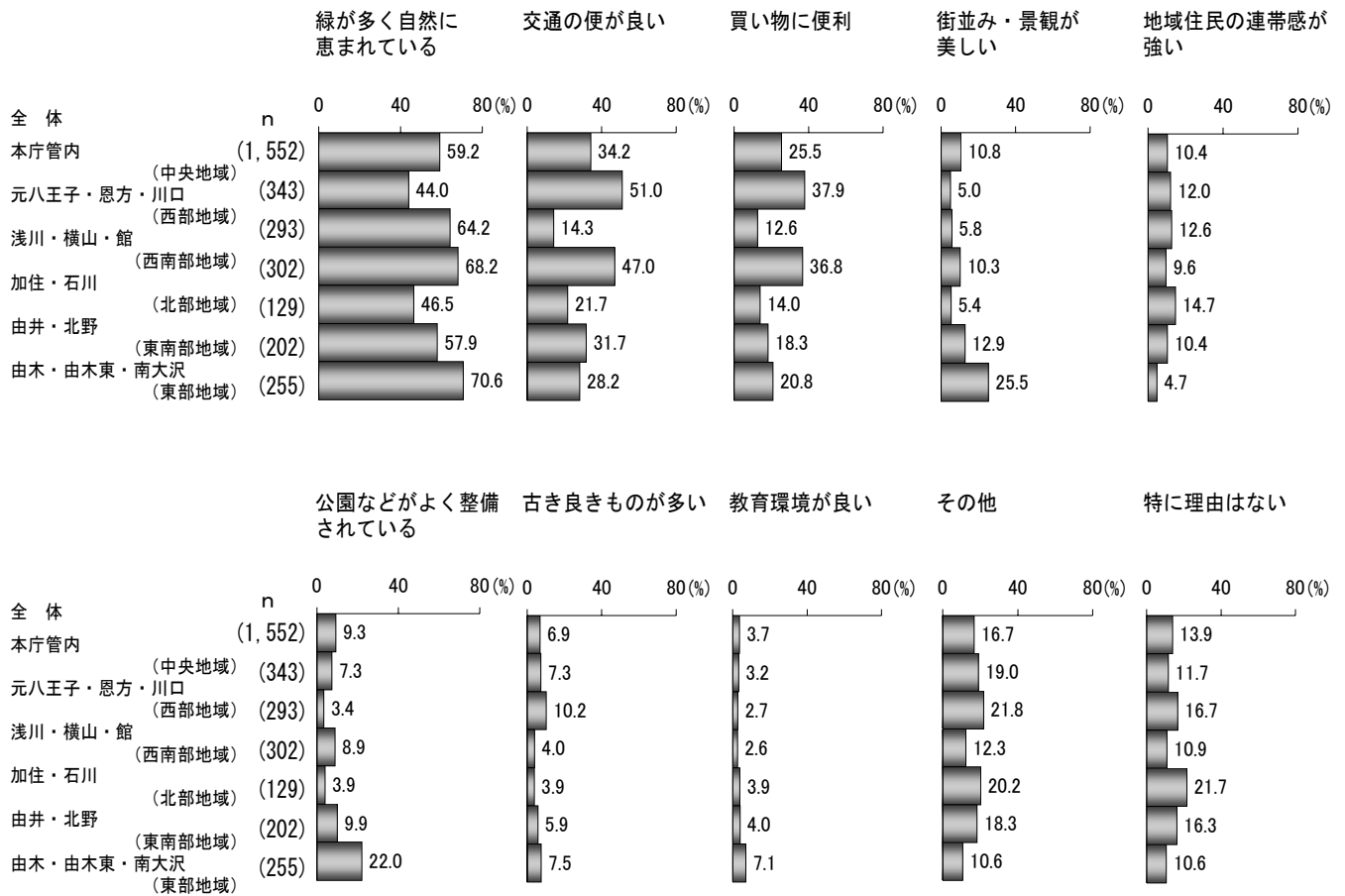
年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性の20歳代、30歳代で6割を超え、女性の65歳以上では7割弱（67.0%）と高くなっている。また、「交通の便が良い」が男性20歳代で5割弱（46.9%）と高く、「買い物に便利」が女性65歳以上で3割台半ば（35.8%）と高くなっている。「地域住民の連帯感が強い」は、男性・女性ともに高い年代ほど割合が高い傾向にある。（図1-2-2）

図1-2-2 住み続けたい理由—性別・年齢別



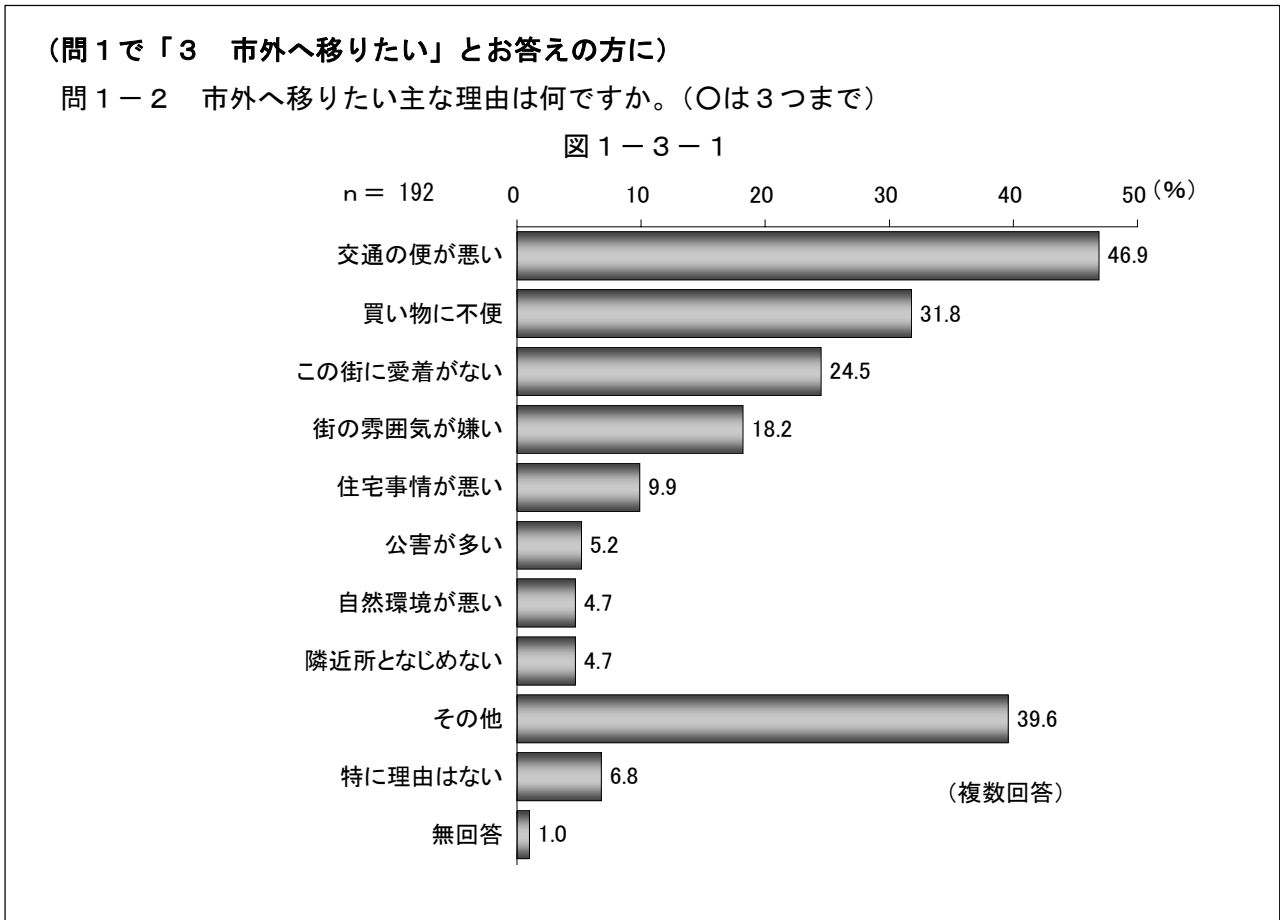
居住地域別にみると、本庁管内（中央地域）では「交通の便が良い」で5割（51.0%）、「買い物に便利」が4割近く（37.9%）と高くなっている。由木・由木東・南大沢（東部地域）では「緑が多く自然に恵まれている」で7割（70.6%）、「街並み・景観が美しい」で2割台半ば（25.5%）、「公園がよく整備されている」が2割を超え（22.0%）、高くなっている。（図1-2-3）

図1-2-3 住み続けたい理由－居住地域別



1-3 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割台半ば、「買い物に不便」が3割強



八王子市への定住意向で「市外へ移りたい」と答えた人(192人)に、市外へ移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」が4割台半ば(46.9%)と最も高く、ついで「買い物に不便」(31.8%)、「この街に愛着がない」(24.5%)、「街の雰囲気が嫌い」(18.2%)と続いている。(図1-3-1)

性別にみると、「街の雰囲気が嫌い」で男性の方が7.3ポイント高く、「交通の便が悪い」で13.9ポイント、「買い物に不便」で13.7ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。(図1-3-2)

居住地域別に見ると、元八王子・恩方・川口(西部地域)では、「交通の便が悪い」が6割(62.5%)を超えている。由井・北野(東南部地域)では、「買い物に不便」が5割弱(47.1%)、「街の雰囲気が悪い」が3割台半ば(35.3%)で高い。由木・由木東・南大沢(東部地域)では、「この街に愛着がない」が3割を超え(33.3%)、高くなっている。(図1-3-3)

図1-3-2 市外へ移りたい理由—性別

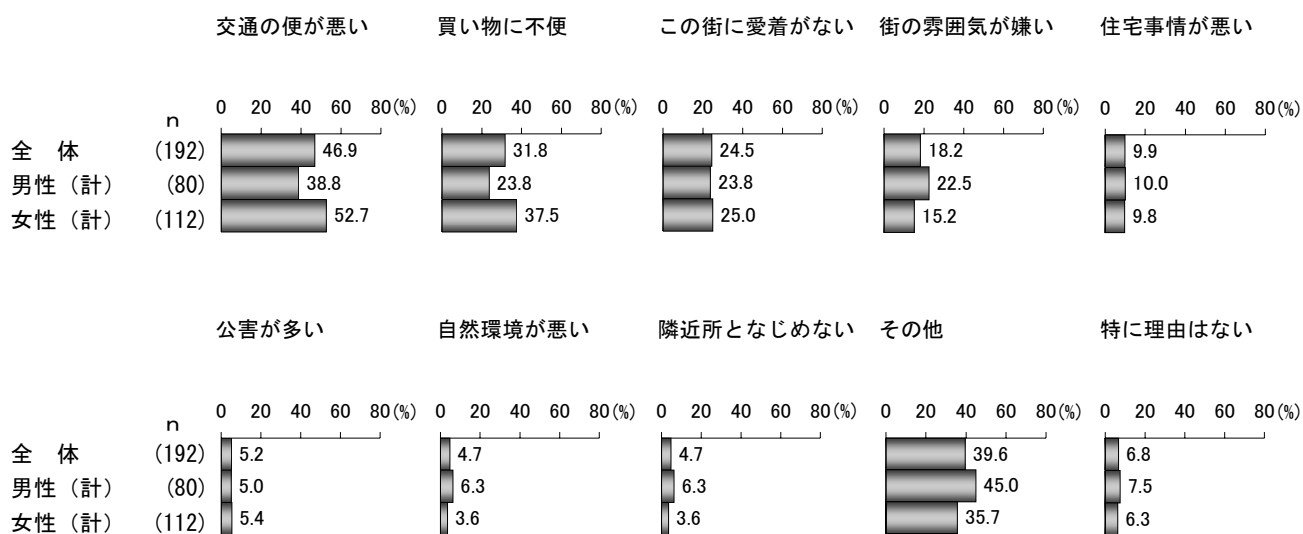
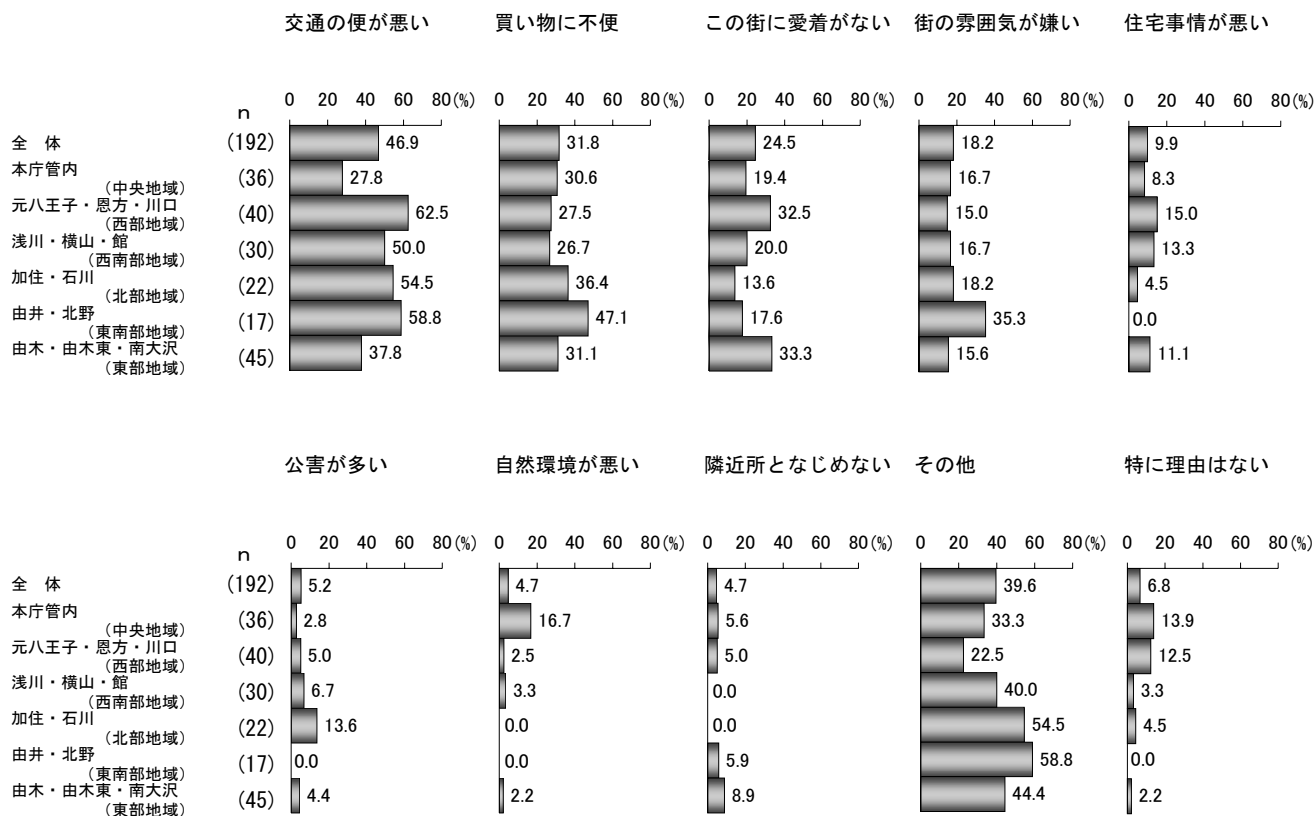


図1-3-3 市外へ移りたい理由—居住地域別



2. 生活環境

2-1 生活環境の評価

◇「緑の豊かさ」と「日当たりや風通し」の二項目の評価が高い

問2 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

図2-1-1



※【(16)全体としての「住みやすさ」】を除き、「良い」と「やや良い」の合算で比率の高い順に並べた

周囲の生活環境について聞いたところ、「(1)日当たりや風通し」において「良い」が5割弱(49.1%)と最も高く、「やや良い」(15.6%)と合わせた『良い』は6割台半ば(64.7%)となっている。一方で、「(9)病院などの医療施設」において「やや悪い」が2割強(22.9%)とかなり高く、「悪い」(8.7%)と合わせた『悪い』は3割強(31.6%)と他の項目と比べて高くなっている。(図2-1-1)

■評価順位

生活環境を15の項目に分け、それぞれの評価を聞いた。

「良い」と「やや良い」の合計を【良い】とし、「やや悪い」と「悪い」の合計を【悪い】とみなした場合の、それぞれ上位5項目をあげると次のようになっている。(図2-1-1)

【良 い】		【悪 い】	
①緑の豊かさ	(67.7%)	①病院などの医療施設	(31.6%)
②日当たりや風通し	(64.7%)	②交通の便	(29.7%)
③し尿処理	(48.3%)	③騒音・振動	(28.3%)
④下水・排水	(46.9%)	④道路の整備状況	(24.5%)
⑤ごみ処理	(46.1%)	⑤公園・遊び場	(23.9%)

なお、【(16)全体としての「住みやすさ」】は、【良い】が4割を超え(43.3%)、【悪い】が1割(11.9%)と、【良い】が31.4ポイント高くなっている。

加重平均値(満足度)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = (\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点～1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど満点度は高くなり、逆に1.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

■満足度順位

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの上位5項目は次のようになっている。

(図2-1-2)

【上 位】		【下 位】	
①緑の豊かさ	(4.00点)	①病院などの医療施設	(2.95点)
②日当たりや風通し	(3.98点)	②交通の安全性	(3.04点)
③し尿処理	(3.82点)	③公園・遊び場	(3.14点)
④下水・排水	(3.66点)	③道路の整備状況	(3.14点)
⑤ごみ処理	(3.63点)	⑤集会施設	(3.19点)

図 2-1-2 生活環境の評価点

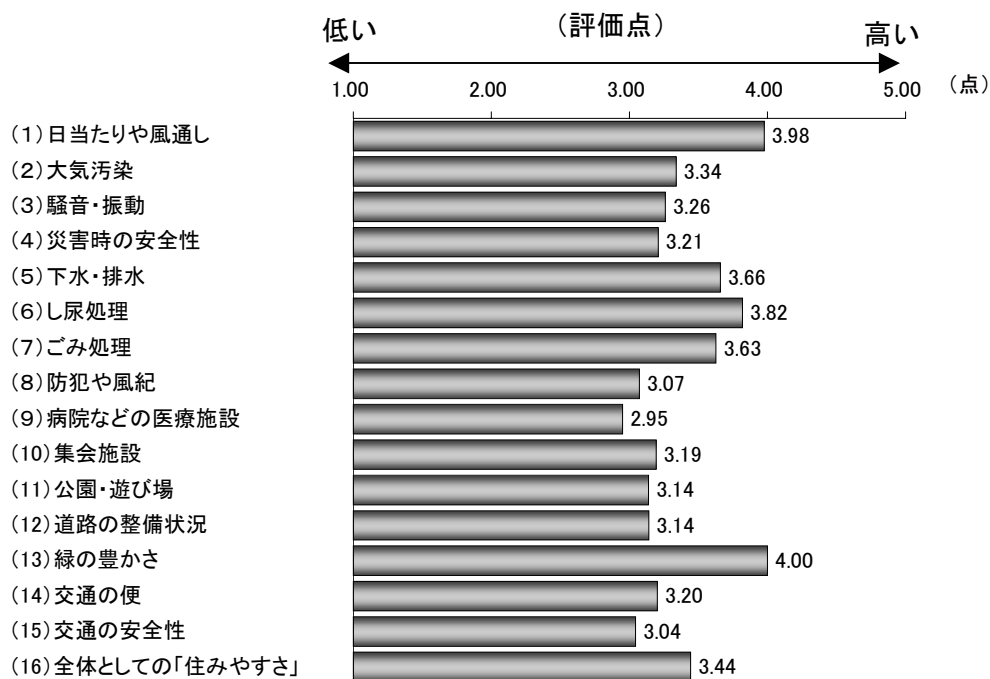


表 2-1-2 生活環境の評価点（加重平均）－居住地域別

	全 体	評価点					
		本 庁 管 内 （ 中 央 地 域 ）	元 八 王 子 ・ 恩 方 ・ 川 口 （ 西 部 地 域 ）	浅 川 ・ 横 山 ・ 館 （ 西 南 部 地 域 ）	加 住 ・ 石 川 （ 北 部 地 域 ）	由 井 ・ 北 野 （ 東 南 部 地 域 ）	南 大 沢 ・ 由 木 ・ 由 木 東 ・ 南 大 沢 （ 東 部 地 域 ）
(1) 日当たりや風通し	3.98	3.71	4.07	3.92	3.97	4.14	4.15
(2) 大気汚染	3.34	2.99	3.46	3.36	2.87	3.54	3.72
(3) 騒音・振動	3.26	2.96	3.46	3.30	2.69	3.53	3.49
(4) 災害時の安全性	3.21	3.09	3.25	3.25	3.12	3.37	3.22
(5) 下水・排水	3.66	3.66	3.34	3.78	3.62	3.89	3.73
(6) し尿処理	3.82	3.86	3.51	3.92	3.81	4.03	3.86
(7) ごみ処理	3.63	3.65	3.52	3.75	3.54	3.69	3.58
(8) 防犯や風紀	3.07	2.99	3.13	3.15	2.94	3.06	3.11
(9) 病院などの医療施設	2.95	3.11	2.63	3.25	3.09	2.91	2.74
(10) 集会施設	3.19	3.24	3.10	3.26	3.29	3.12	3.20
(11) 公園・遊び場	3.14	2.94	2.86	3.20	3.05	3.26	3.58
(12) 道路の整備状況	3.14	3.08	2.61	3.20	3.00	3.28	3.70
(13) 緑の豊かさ	4.00	3.46	4.10	4.08	3.90	4.18	4.41
(14) 交通の便	3.20	3.66	2.35	3.58	2.66	3.32	3.31
(15) 交通の安全性	3.04	3.01	2.61	3.20	2.73	3.18	3.45
(16) 全体としての「住みやすさ」	3.44	3.37	3.19	3.60	3.24	3.60	3.65

■ は項目内での最高値

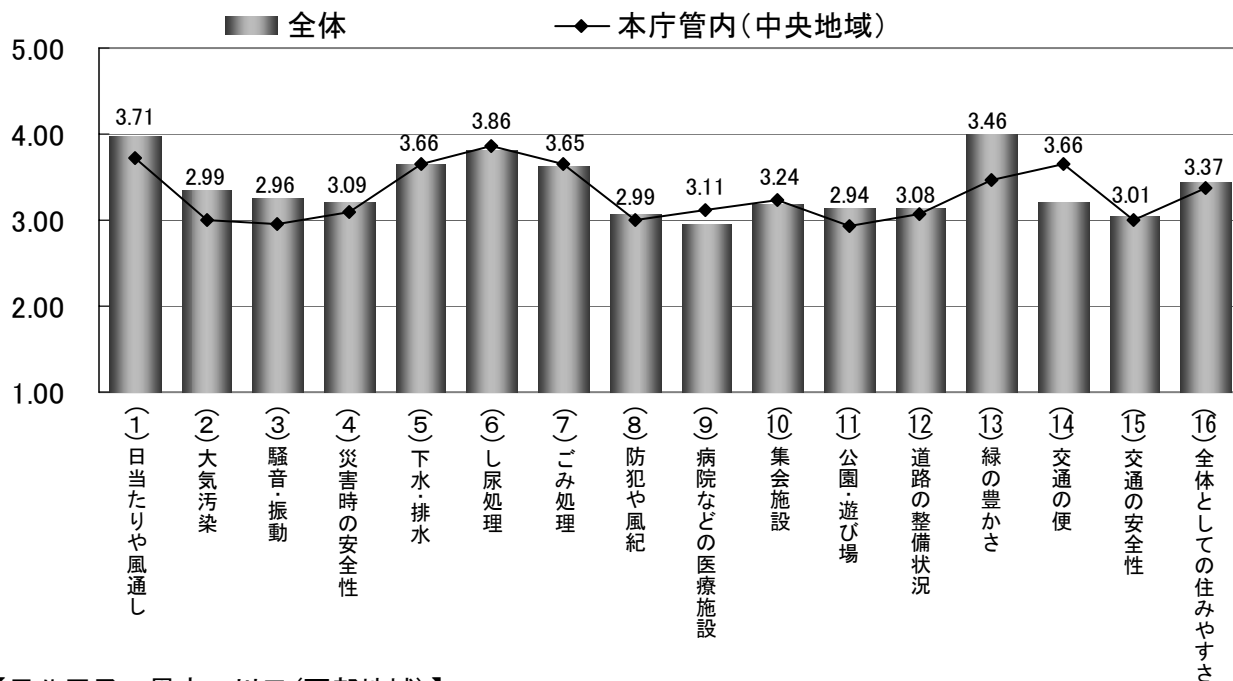
■ は項目内での最低値

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中5項目で、最も差が大きいのは、「交通の便」(+0.46ポイント)となっている。下回っているのは、11項目で、最も差が大きいのは、「緑の豊かさ」(-0.54ポイント)で、他に差が大きいのは、大気汚染(-0.35ポイント)、騒音・振動(-0.30ポイント)となっている。(図2-1-3)

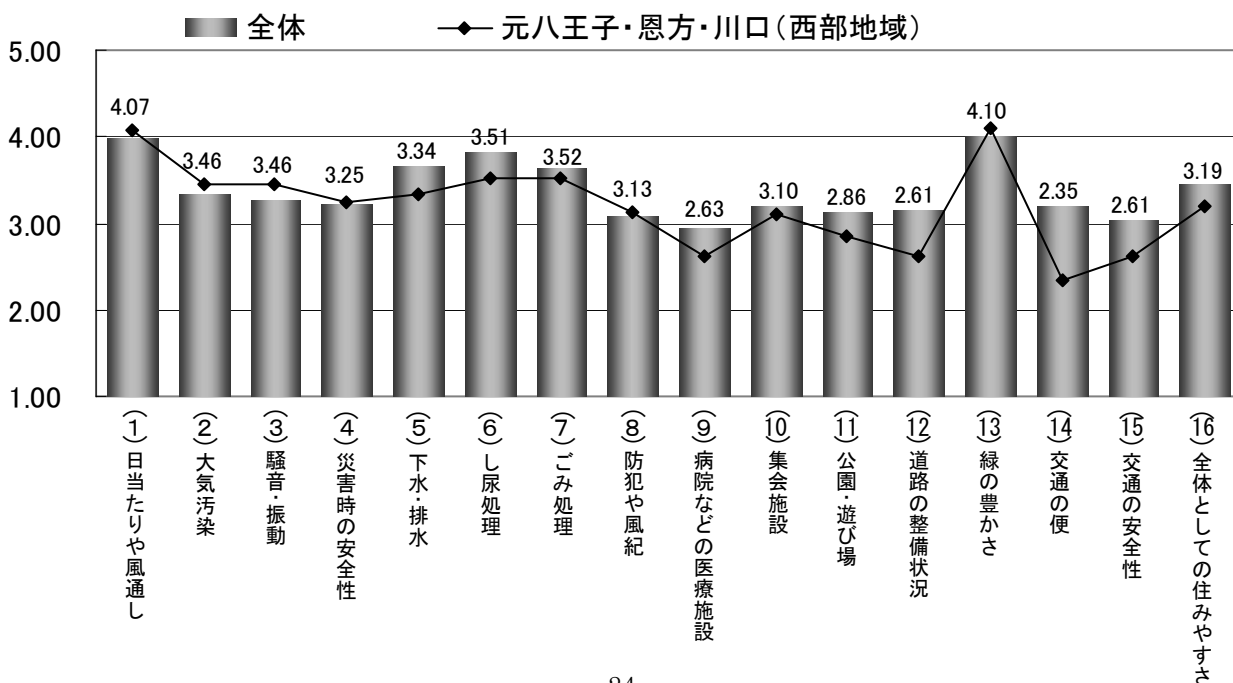
図2-1-3 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内(中央地域)」



【元八王子・恩方・川口(西部地域)】

市全体より上回っているのは、16項目中6項目で、最も差が大きいのは、「騒音・振動」(+0.20ポイント)となっている。下回っているのは10項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(-0.85ポイント)で、他に差が大きいのは、道路の整備状況(-0.53ポイント)、交通の安全性(-0.43ポイント)となっている。(図2-1-4)

図2-1-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口(西部地域)」

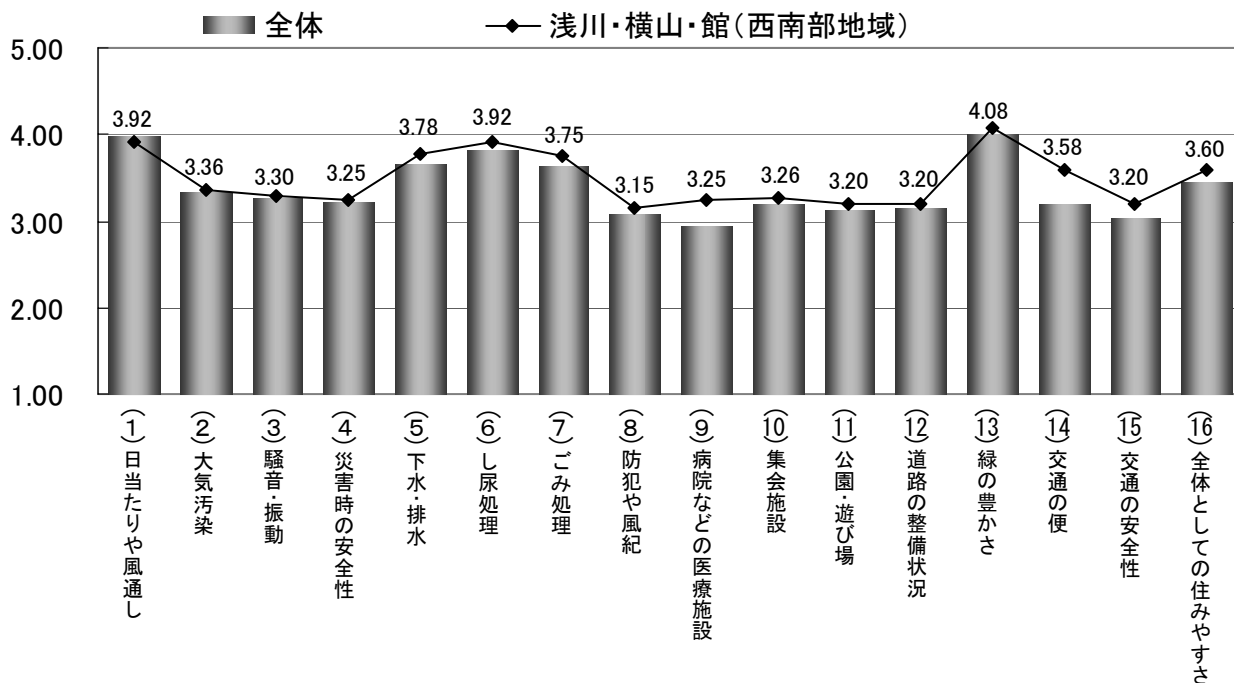


【浅川・横山・館(西南部地域)】

市全体より上回っているのは、16項目中15項目で、最も差が大きいのは「交通の便」(+0.38ポイント)で、他に差が大きいのは「病院などの医療施設」(+0.30ポイント)となっている。

(図2-1-5)

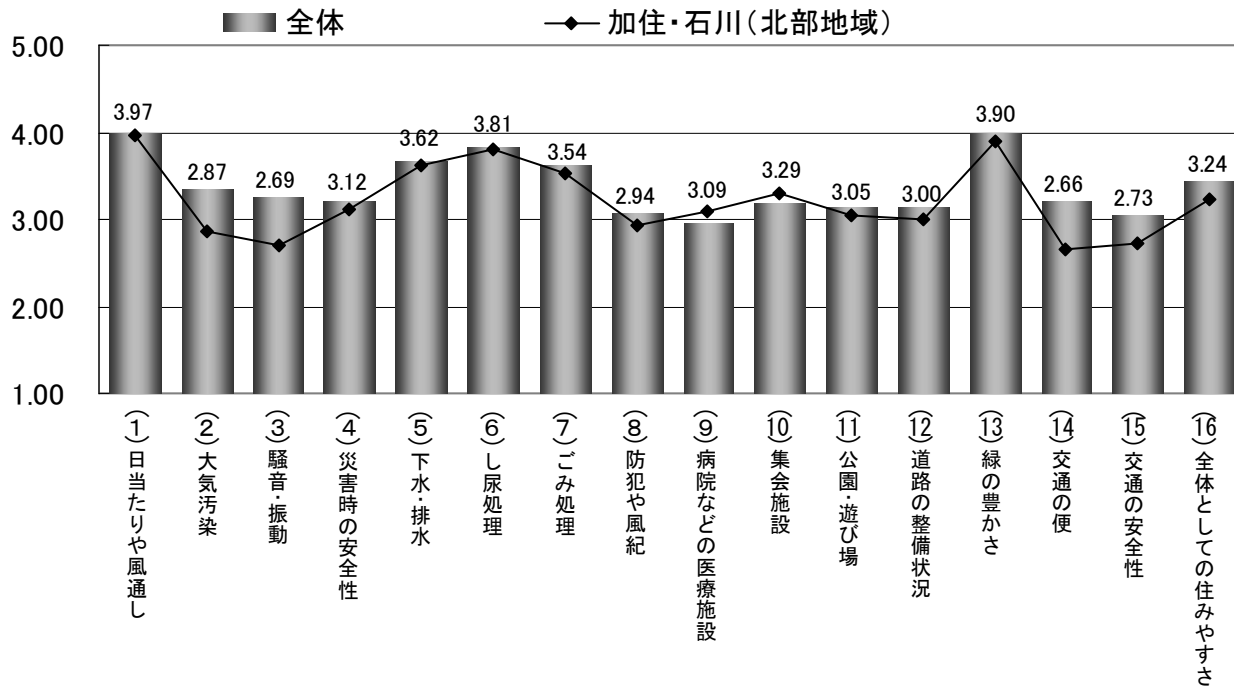
図2-1-5 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「浅川・横山・館(西南部地域)」



【加住・石川(北部地域)】

市全体より上回っているのは、16項目中2項目で、差が大きくなっている項目はみられない。下回っている項目は14項目で、全地域で最も多い。最も差が大きいのは「騒音・振動」(-0.57ポイント)で、他に差が大きいのは、「交通の便」(-0.54ポイント)、「大気汚染」(-0.47ポイント)、「交通の安全性」(-0.31ポイント)となっている。(図2-1-6)

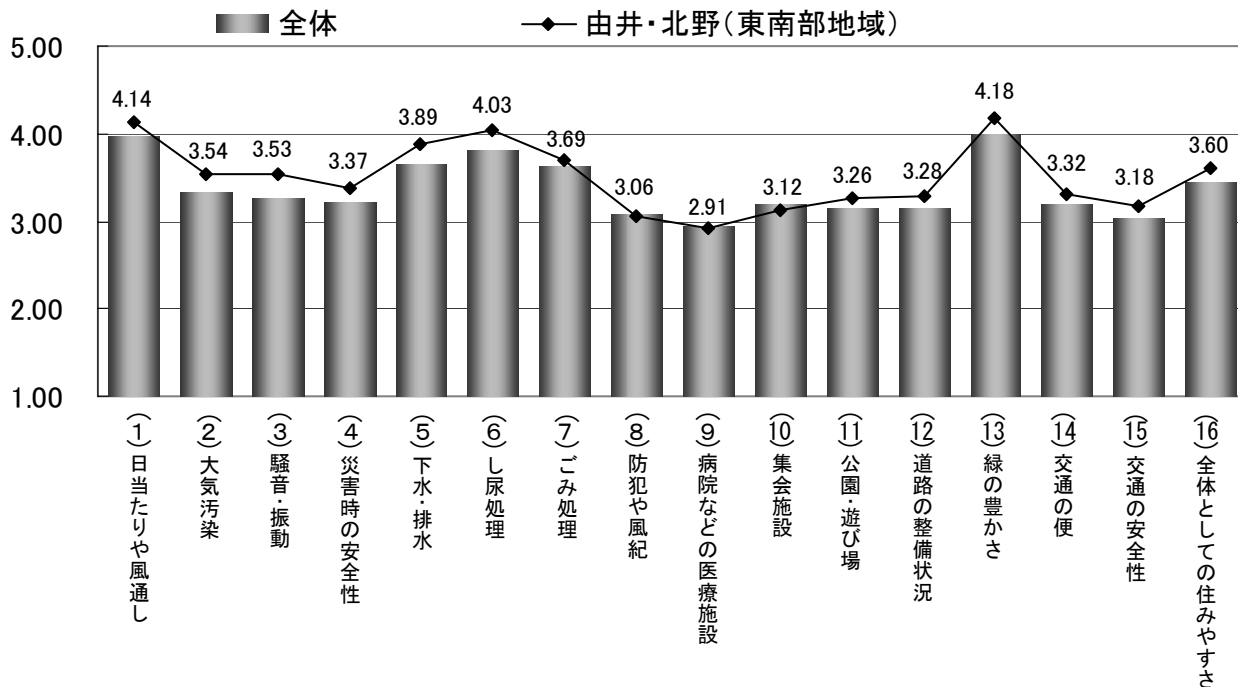
図2-1-6 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「加住・石川(北部地域)」



【由井・北野(東南部地域)】

市全体より上回っているのは、16項目中13項目、下回っているのは3項目で、いずれも差が大きくなっている項目はみられない。(図2-1-7)

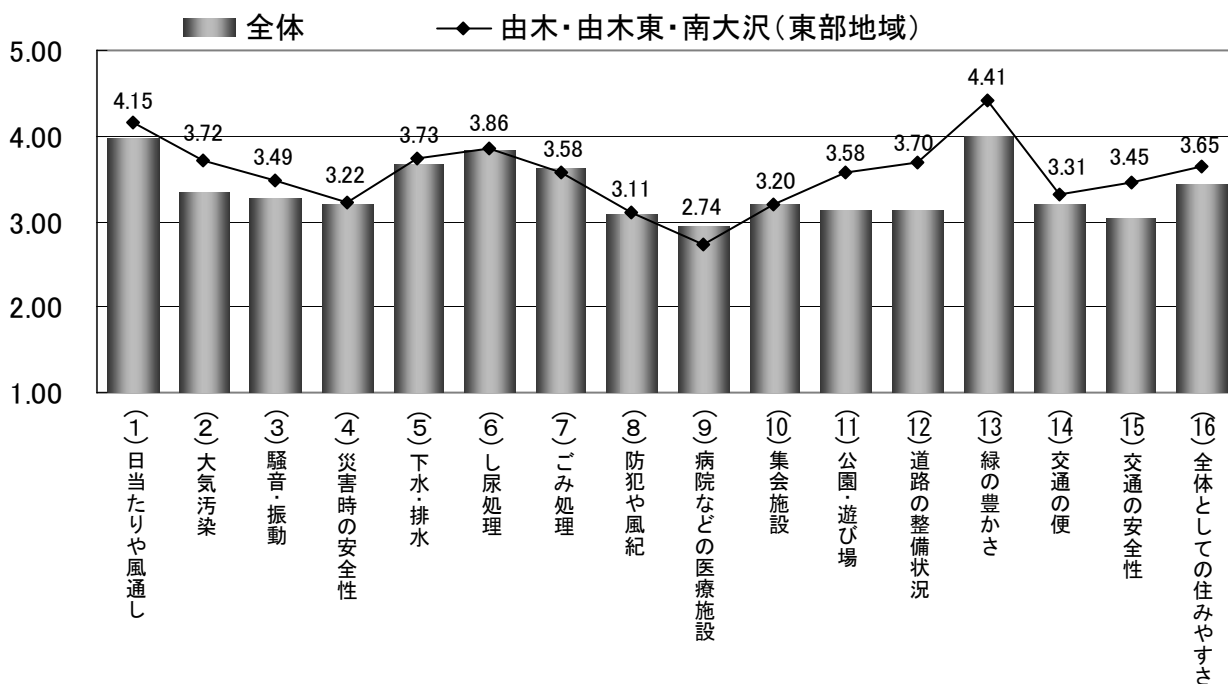
図2-1-7 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「由井・北野(東南部地域)」



【由木・由木東・南大沢(東部地域)】

市全体より上回っているのは、16項目中14項目で、最も差が大きいのは「道路の整備状況」(+0.56ポイント)で、他に差が大きいのは、「公園・遊び場」(+0.44ポイント)、「緑の豊かさ」(+0.41ポイント)、「交通の安全性」(+0.41ポイント)となっている。下回っているのは、「病院などの医療施設」(-0.21ポイント)、「ごみ処理」(-0.05ポイント)となっている。(図2-1-8)

図2-1-8 生活環境の評価(加重平均) - 居住地域別「由木・由木東・南大沢(東部地域)」



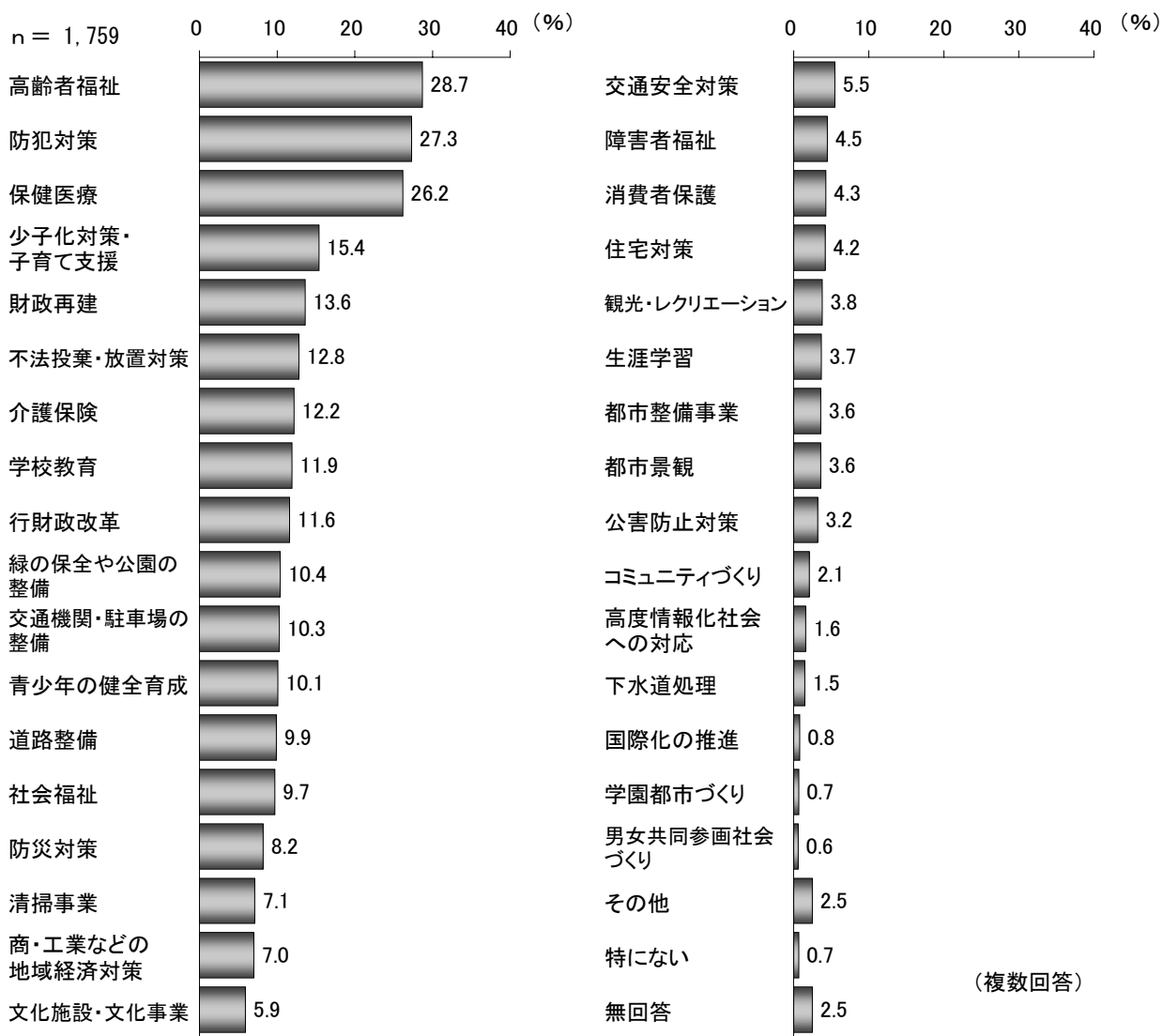
3. 市政への要望

3-1 重点施策要望

◇「高齢者福祉」、「防犯対策」、「保健医療」が上位3施策

問3 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください。

図3-1-1



市政全般において特に力を入れてほしいと思う施策について聞いたところ、「高齢者福祉」(28.7%)「防犯対策」(27.3%)、「保健医療」(26.2%)の三項目が3割弱で高い。ついで「少子化対策・子育て支援」(15.4%)、「財政再建」(13.6%)と続いている。(図3-1-1)

経年での変化を見ると、前回から引き続き上位4位は「防犯対策」、「高齢者福祉」、「保健医療」、「少子化対策・子育て支援」となったが、順位は「高齢者福祉」が1位になった。第5位には、前回6位だった「財政再建」が入っている。一方で「不法投棄・放置対策(自動車、自転車、バイク、ごみ等)」が5位から6位に、「学校教育」が7位から8位に、「緑の保全や公園の整備」が8位から10位になっている。また、前回14位だった「介護保険」が7位となっている。(表3-1-1)

表3-1-1 重点施策要望一経年比較

(%)

順位	年	平成16年	平成17年	平成18年
第1位		防犯対策 (31.1)	防犯対策 (29.7)	高齢者福祉 (28.7)
第2位		高齢者福祉 (27.2)	高齢者福祉 (23.7)	防犯対策 (27.3)
第3位		保健医療 (23.2)	保健医療 (22.6)	保健医療 (26.2)
第4位		財政再建 (16.0)	少子化対策・ 子育て支援 (14.3)	少子化対策・ 子育て支援 (15.4)
第5位		学校教育 (14.3)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (14.2)	財政再建 (13.6)
第6位		不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (13.7)	財政再建 (13.4)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、バイク、 ごみ等) (12.8)
第7位		行財政改革 (12.3)	学校教育 (13.3)	介護保険 (12.2)
第8位		道路整備 (11.4)	緑の保全や公園の 整備 (12.1)	学校教育 (11.9)
第9位		少子化対策・ 子育て支援 (11.3)	行財政改革 (12.0)	行財政改革 (11.6)
第10位		清掃事業 (10.8)	青少年の健全育成 (11.0)	緑の保全や公園の 整備 (10.4)

性別にみると、男性の第1位は「防犯対策」(27.4%)で、女性の第1位は「高齢者福祉」(30.2%)となっている。第2位及び第3位については、男性が「高齢者福祉」(26.9%)、「保健医療」(23.0%)、女性が「保健医療」(28.7%)、「防犯対策」(27.6%)となっている。また、「保健医療」については、女性の方が5.7ポイント高くなっている。

性・年齢別に第1位みると男女ともに、20歳代・40歳代では「防犯対策」、30歳代では「少子化対策」、50歳代以上の年代では「高齢者福祉」が第1位となっている。

「防犯対策」は男性ではすべての年代で第3位までに、女性では第4位までに入っている。「高齢者福祉」は男女ともに高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男女の65歳以上では4割台半ばを占めている。(表3-1-2)

表3-1-2 重点施策要望—性別・年齢別 (％)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	防犯対策 (27.4)	高齢者福祉 (26.9)	保健医療 (23.0)	財政再建 (15.4)	行財政改革 (14.3)
女性	高齢者福祉 (30.2)	保健医療 (28.7)	防犯対策 (27.6)	少子化対策 (17.9)	介護保険 (15.4)
男性 20歳代	防犯対策 (31.1)	交通機関・駐車場の整備 (25.2)	少子化対策 (16.5)	財政再建 (15.5)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (14.6)
30歳代	少子化対策 (36.9)	防犯対策 (34.4)	学校教育／保健医療 (21.3)		財政再建 (18.0)
40歳代	防犯対策 (32.0)	学校教育 (19.7)	高齢者福祉 (18.0)	保健医療 (17.2)	少子化対策 (16.4)
50歳代	高齢者福祉 (32.3)	防犯対策 (25.6)	保健医療 (24.6)	行財政改革 (16.4)	道路整備 (14.9)
60～64歳	高齢者福祉 (26.5)	保健医療／防犯対策 (24.1)		行財政改革 (21.7)	財政再建 (18.1)
65歳以上	高齢者福祉 (46.7)	保健医療 (31.3)	防犯対策 (22.0)	行財政改革 (17.8)	財政再建 (15.4)
女性 20歳代	防犯対策 (32.0)	少子化対策 (28.0)	学校教育／保健医療 (21.0)		交通機関・駐車場の整備 (18.0)
30歳代	少子化対策 (45.9)	防犯対策 (40.1)	学校教育 (27.4)	保健医療 (26.1)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (12.7)
40歳代	防犯対策 (30.4)	保健医療 (25.6)	高齢者福祉 (24.8)	学校教育 (21.6)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (16.0)
50歳代	高齢者福祉 (34.7)	保健医療 (33.7)	防犯対策 (26.0)	財政再建 (18.9)	介護保険 (18.4)
60～64歳	高齢者福祉 (42.9)	保健医療 (33.0)	介護保険 (26.4)	防犯対策／防災対策 (16.5)	
65歳以上	高齢者福祉 (46.5)	保健医療 (29.2)	防犯対策 (21.7)	介護保険 (20.4)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (12.4)

居住地域別でみると、本庁管内（中央地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）は、「防犯対策」が1位で、元八王子・恩方・川口（西部地域）、浅川・横山・館（西南部地域）、加住・石川（北部地域）では、「高齢者福祉」が1位である。また、由井・北野（東南部地域）では、「高齢者福祉」と「防犯対策」が同率で1位である。また、すべての居住地域で「防犯対策」、「高齢者福祉」、「保健医療」が上位3位までを占めている。（表3-1-3）

表3-1-3 重点施策要望－居住地域別

(%)

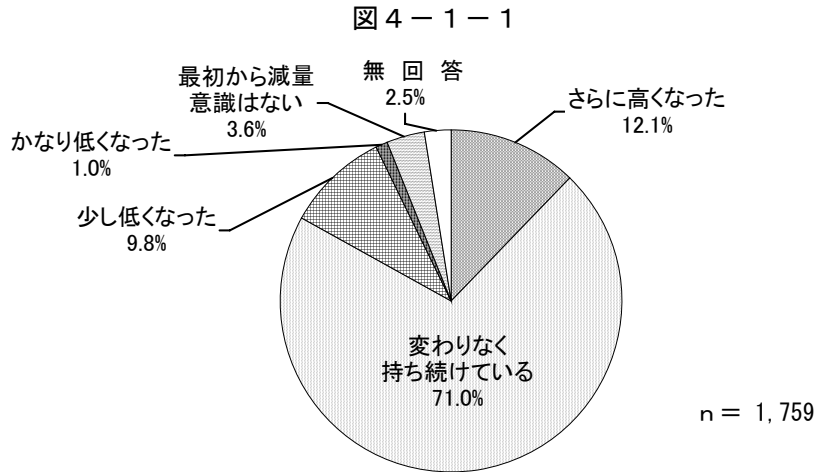
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
本 庁 管 内 （ 中 央 地 域 ）	防犯対策 (29.9)	高齢者福祉 (27.5)	保健医療 (26.2)	少子化対策 (17.9)	財政再建 (14.8)
元八王子・恩方・川口 （ 西 部 地 域 ）	高齢者福祉 (29.9)	保健医療 (25.4)	防犯対策 (23.1)	道路整備 (19.8)	交通機関・駐車場の整備 (15.3)
浅川・横山・館 （ 西 南 部 地 域 ）	高齢者福祉 (28.2)	保健医療 (24.3)	防犯対策 (24.0)	財政再建 (14.4)	少子化対策 (14.1)
加 住 ・ 石 川 （ 北 部 地 域 ）	高齢者福祉 (29.6)	保健医療 (27.6)	防犯対策 (23.0)	不法投棄・放置対策 (自動車、自転車、 バイク、ごみ等) (17.1)	少子化対策 (16.4)
由 井 ・ 北 野 （ 東 南 部 地 域 ）	高齢者福祉／防犯対策 (30.8)		保健医療 (26.7)	財政再建／少子化対策 (15.8)	
由木・由木東・南大沢 （ 東 部 地 域 ）	防犯対策 (32.7)	保健医療 (27.4)	高齢者福祉 (26.4)	少子化対策 (17.2)	学校教育 (14.9)

4. ごみ有料化後のごみ減量意識について

4-1 ごみ減量意識の有無

◇「変わりなく持ち続けている」が7割強と突出

問4 あなたは、一昨年10月のごみ有料化時点のごみ減量意識を、今も持ち続けていますか。
(○は1つだけ)



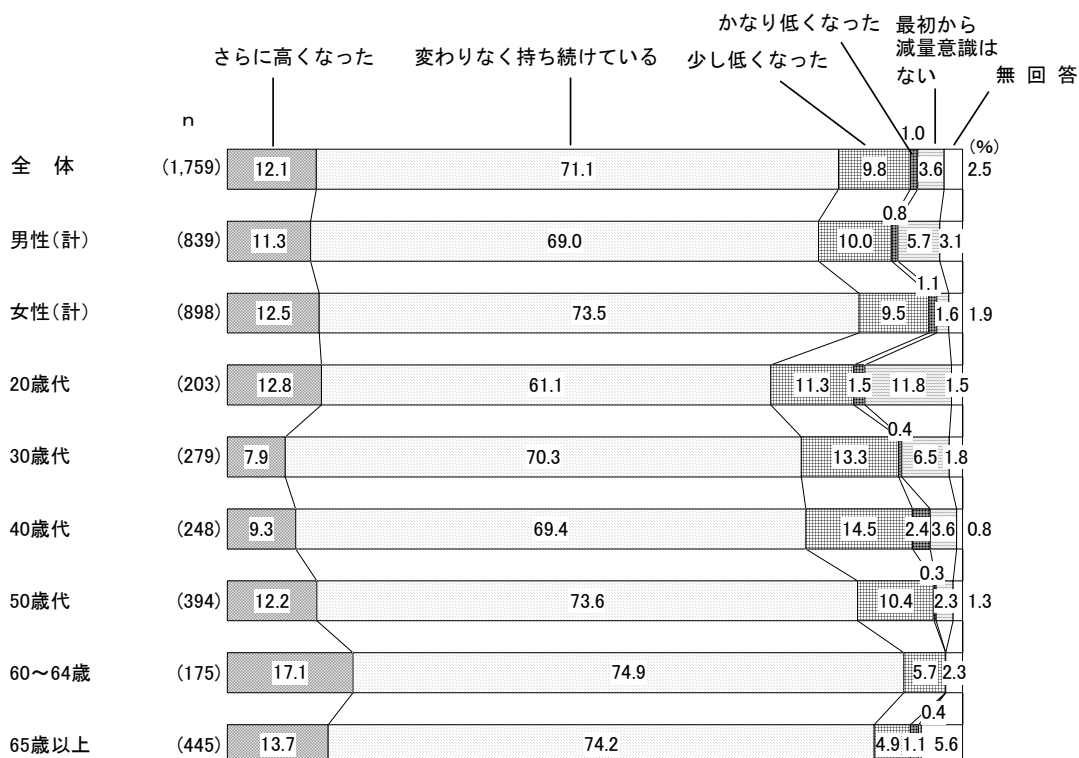
ごみ減量意識を今でも持ち続けているかどうかについて聞いたところ、「変わりなく持ち続けている」が7割を超え(71.0%)高くなっている。「さらに高くなった」は1割強(12.1%)である。「少し低くなった」(9.8%)と「かなり低くなった」(1.0%)を合わせた『低くなった』は、1割(10.8%)となっている。(図4-1-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向となっている。

年齢別にみると、「さらに高くなった」は60~64歳の年代で1割台半ば(17.1%)を超えている。

(図4-1-2)

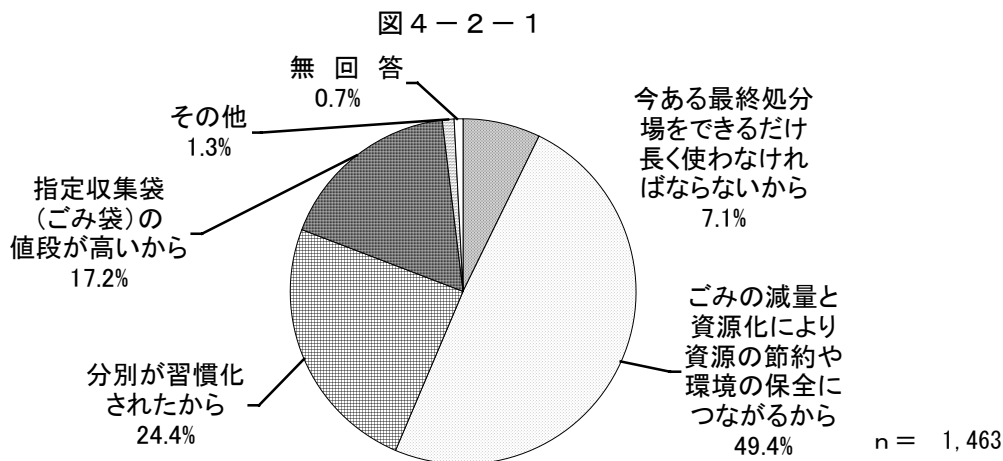
図4-1-2 ごみ減量意識の有無-性別・年齢別



4-2 ごみ減量意識が今でも続いている理由

◇「ごみの減量と資源化により資源の節約や環境の保全につながるから」が5割弱

(問4で「1 さらに高くなった」または「2 変わりなく持ち続けている」とお答えの方に)
 問4-1 ごみ減量意識が今も続いている理由として、次のうち最も近い理由はどれですか。
 (〇は1つだけ)

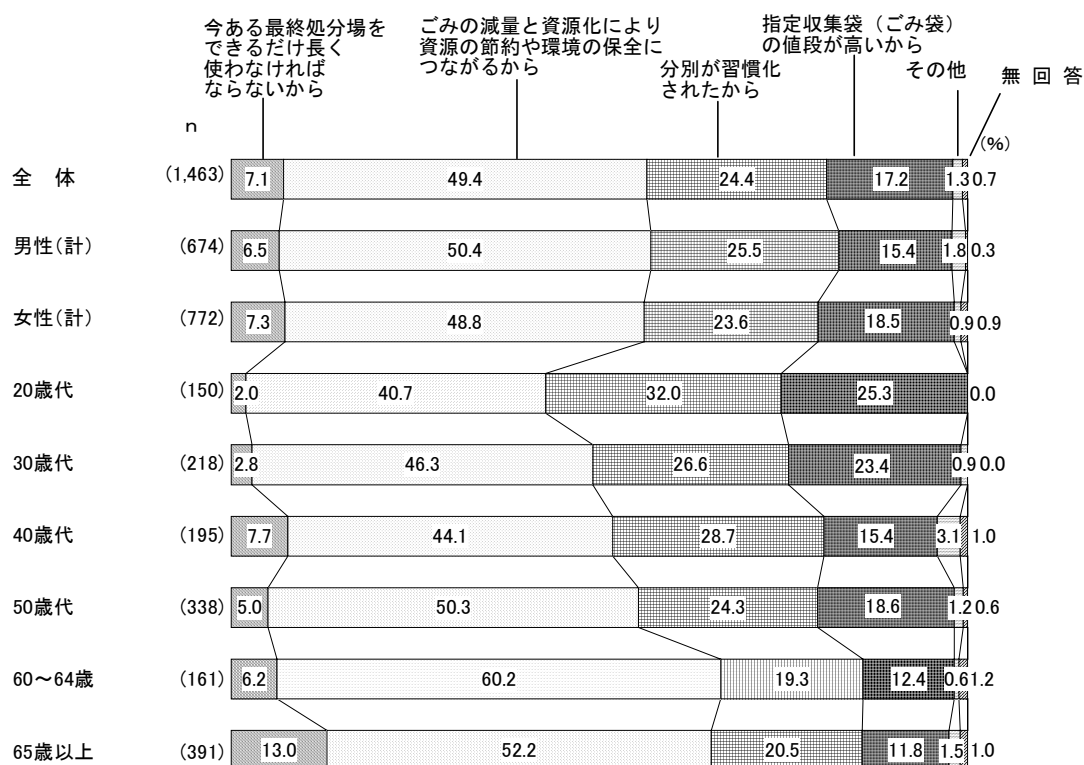


ごみ減量意識の有無で「さらに高くなった」または「変わりなく持ち続けている」と答えた人(1,463人)に、ごみ減量意識が今も続いている理由について聞いたところ、「ごみの減量と資源化により資源の節約や環境の保全につながるから」(49.4%)が5割弱と最も高く、ついで「分別が習慣化されたから」(24.4%)、「指定収集袋(ごみ袋)の値段が高いから」(17.2%)と続いている。(図4-2-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「ごみの減量と資源化により資源の節約や環境の保全につながるから」が、60～64歳の年代で6割(60.2%)と高くなっている。(図4-2-2)

図4-2-2 ごみ減量意識が今でも続いている理由—性別・年齢別

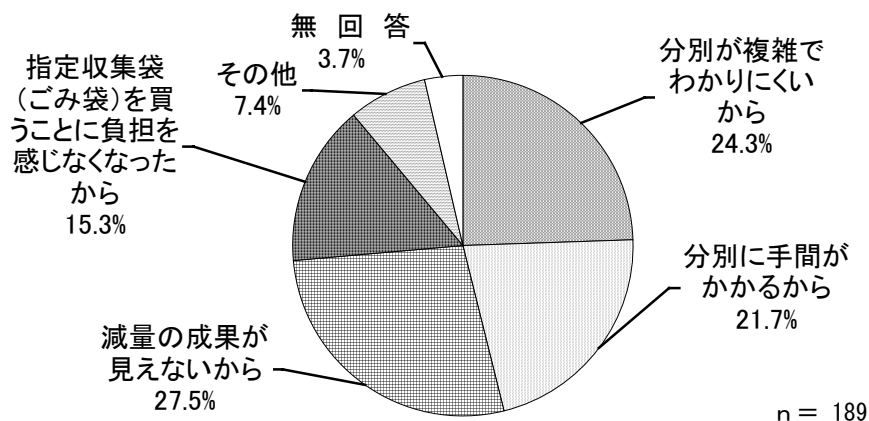


4-3 ごみ減量意識が低くなった理由

◇「減量の成果が見えないから」が3割弱

(問4で「3 少し低くなった」または「4 かなり低くなった」とお答えの方に)
 問4-2 ごみ減量意識が低くなった理由として、次のうち最も近い理由はどれですか。
 (〇は1つだけ)

図4-3-1

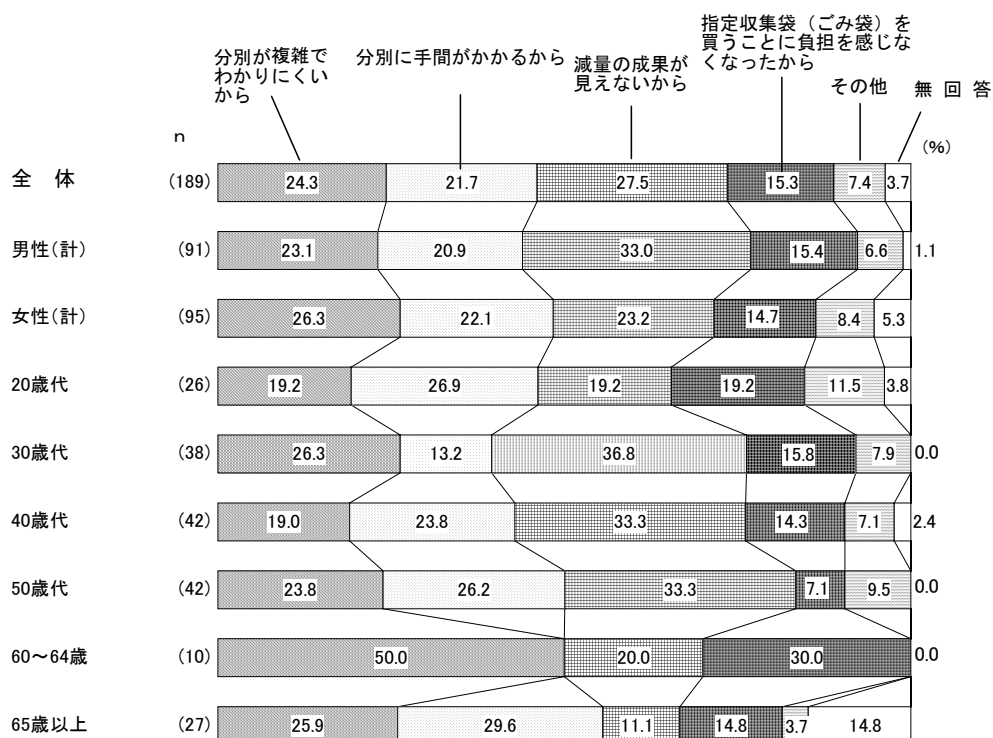


ごみ減量意識の有無で「少し低くなった」または「かなり低くなった」と答えた人(189人)に、ごみ減量意識が低くなった理由について聞いたところ、「減量の成果が見えないから」が3割弱(27.5%)と最も高く、ついで「分別が複雑でわかりにくいから」(24.3%)、「分別に手間がかかるから」(21.7%)と続いている。(図4-3-1)

性別にみると、「減量の成果が見えないから」は男子の方が9.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60~64歳の年代で、「分別が複雑でわかりにくいから」が5割(50.0%)と高くなっている。(図4-3-2)

図4-3-2 ごみ減量意識が低くなった理由-性別・年齢別

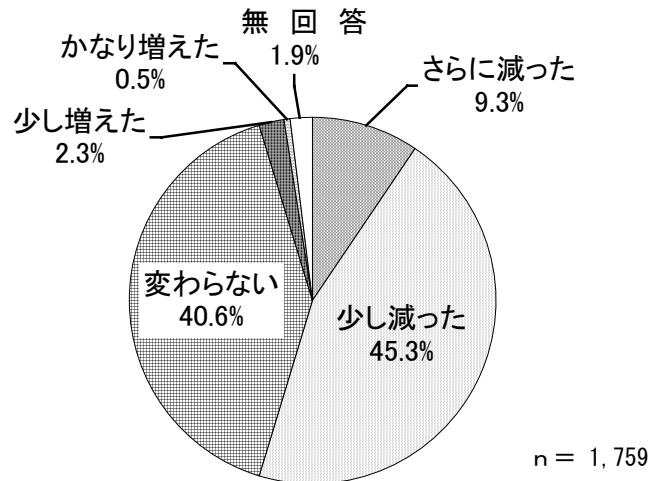


4-4 ごみの量の変化

◇『減った』が5割台半ば

問5 ごみ有料化実施直後と現在では、家庭から出るごみの量は変化しましたか。(○は1つだけ)

図4-4-1



家庭から出るごみの量の変化について聞いたところ、「少し減った」が4割台半ば(45.3%)と最も高く、「さらに減った」(9.3%)と合わせた『減った』は5割台半ば(54.6%)となっている。(図4-4-1)

性別にみると、女性の方が男性よりも『減った』の割合が高く、6割弱(58.7%)となっている。

年齢別にみると、高い年代ほど、『減った』の割合が高くなる傾向にある。(図4-4-2)

居住地域別にみると、どの地区もほぼ同じ傾向となっている。(図4-4-3)

図 4-4-2 ごみの量の変化—性別・年齢別

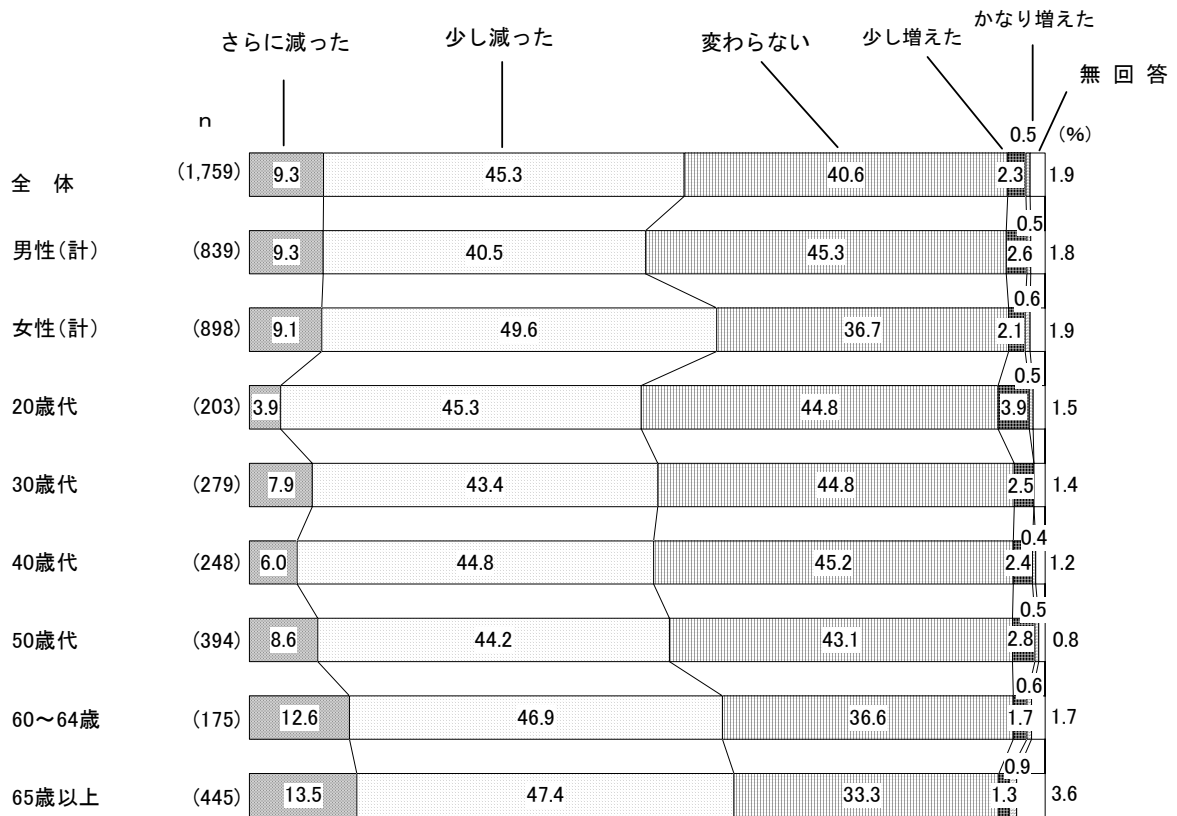
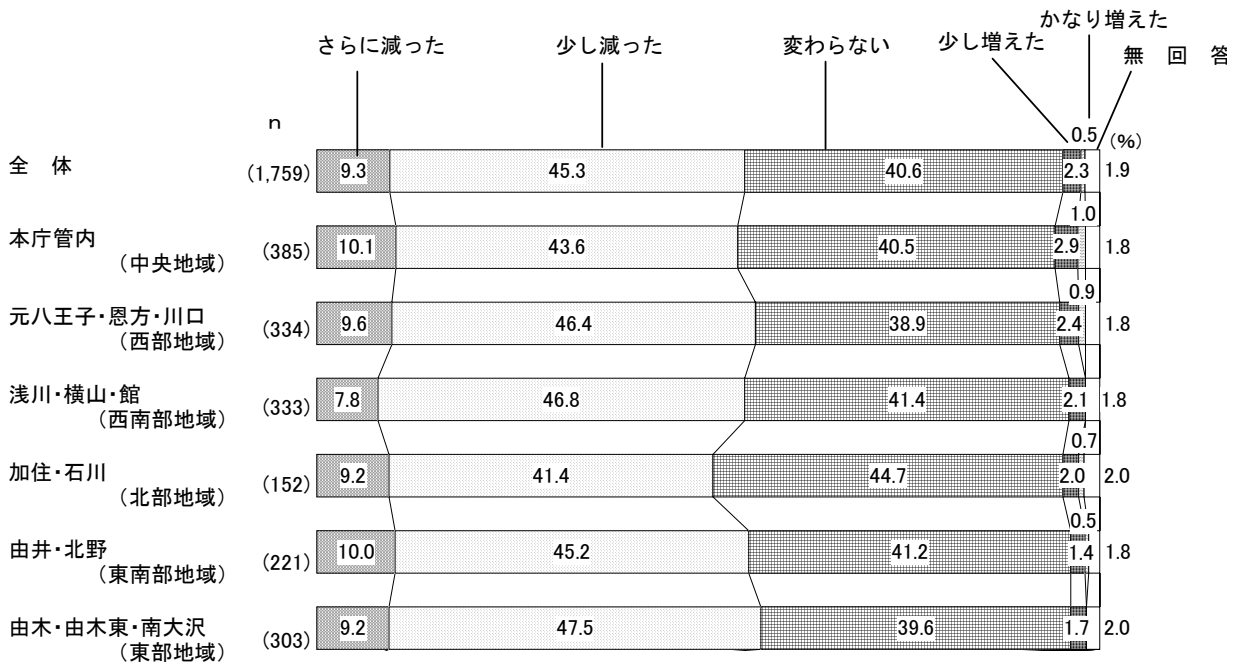


図 4-4-3 ごみの量の変化—居住地域別

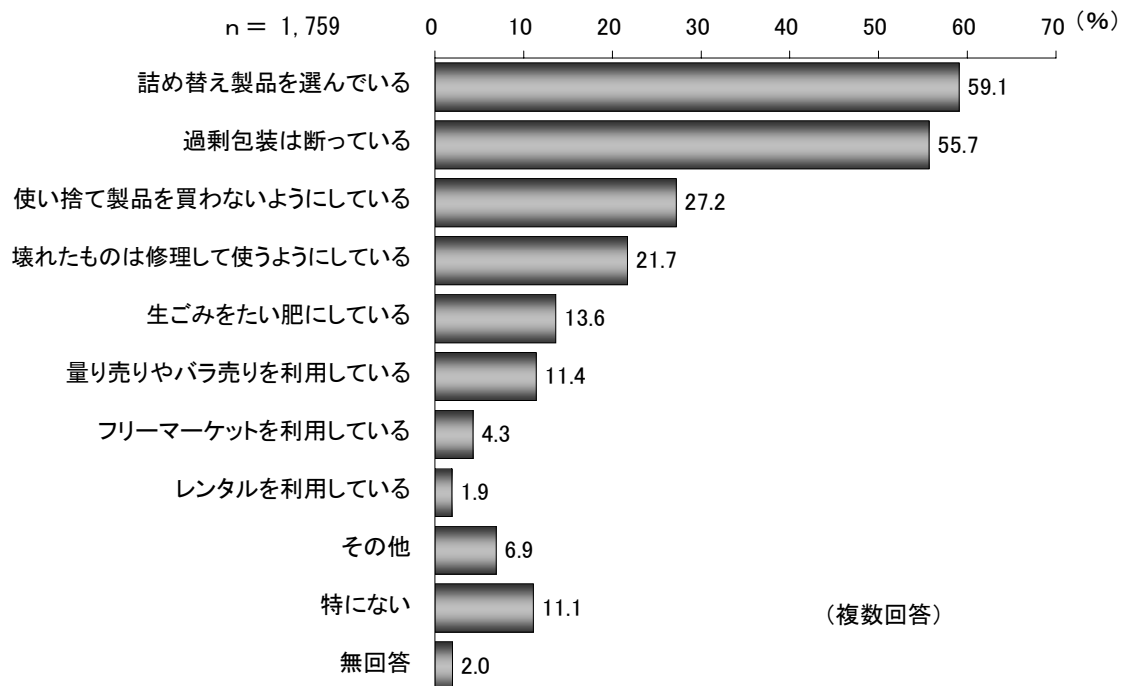


4-5 ごみを少なくするために心がけていること

◇「詰め替え製品を選んでいる」が6割弱

問6 あなたは日頃、ごみを少なくするために心がけていることはありますか。(○はいくつでも)

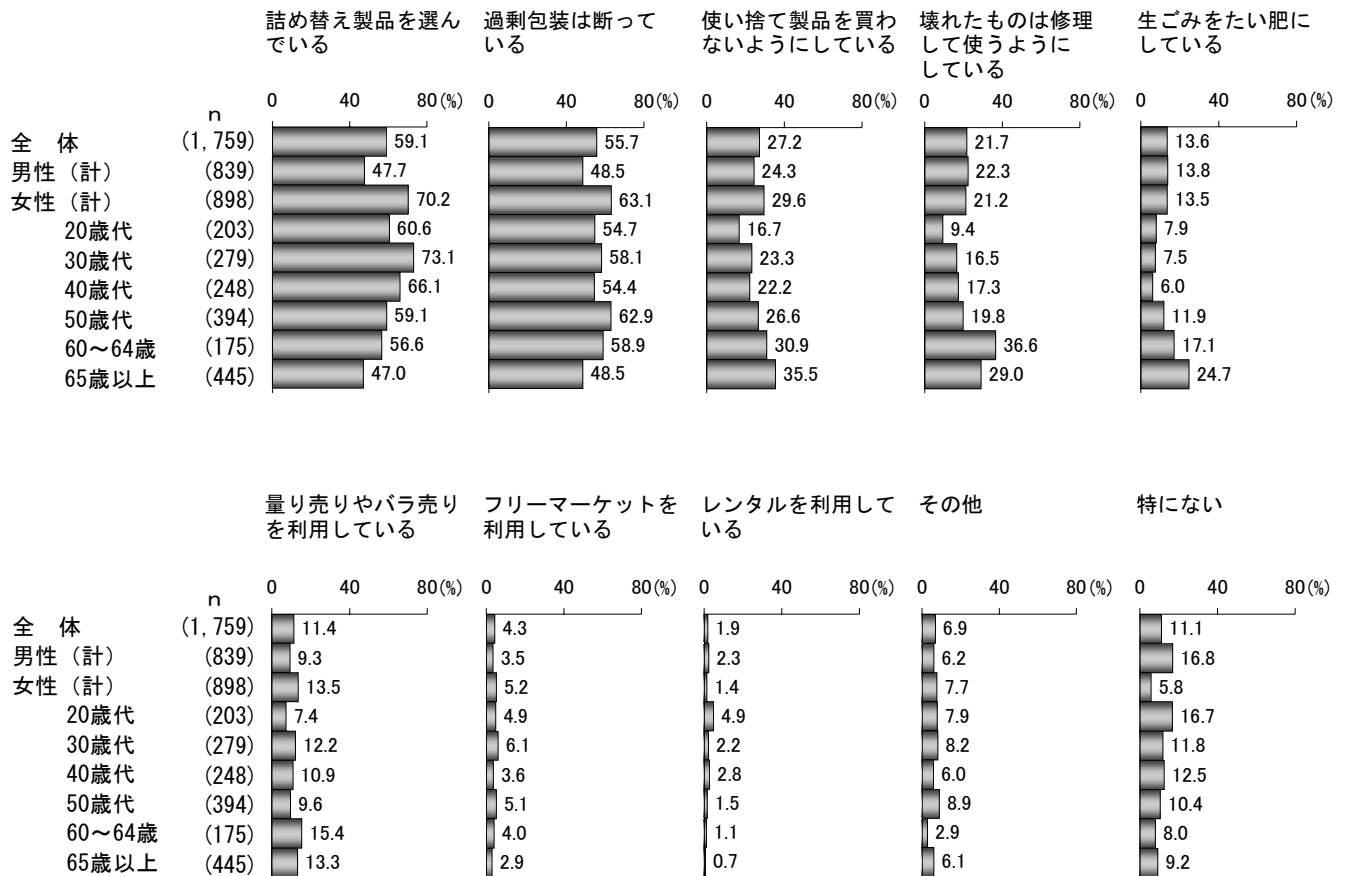
図4-5-1



日頃、ごみを少なくするために心がけていることについて聞いたところ、「詰め替え製品を選んでいる」が6割弱（59.1%）、「過剰包装は断っている」が5割台半ば（55.7%）と高く、ついで「使い捨て製品を買わないようにしている」（27.2%）、「壊れたものは修理して使うようにしている」（21.7%）と続いている。（図4-5-1）

性別でみると、「詰め替え製品を選んでいる」の割合が、女性の方が22.5ポイント高くなっている。年齢別でみると、「詰め替え製品を選んでいる」の割合が30歳代で7割強（73.1%）と高い。また、「壊れたものは修理して使うようにしている」の割合が60～64歳の年代で3割台半ば（36.6%）と高くなっている。（図4-5-2）

図4-5-2 ごみを少なくするために心がけていること一性別・年齢別

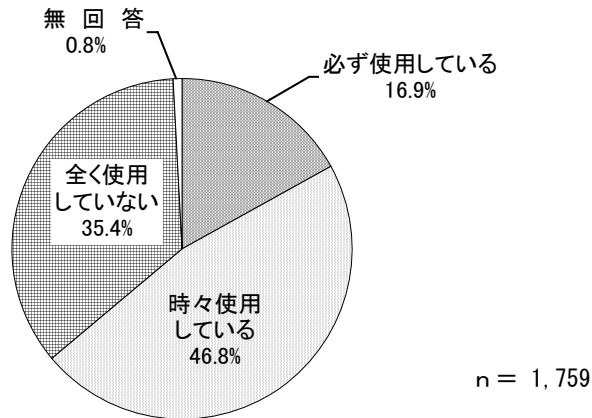


4-6 買い物袋の使用

◇「時々使用している」が4割台半ば

問7 使い捨ての象徴としてレジ袋が挙げられますが、普段レジ袋をもらわないように買い物袋（マイバッグ）を使用していますか。（○は1つだけ）

図4-6-1



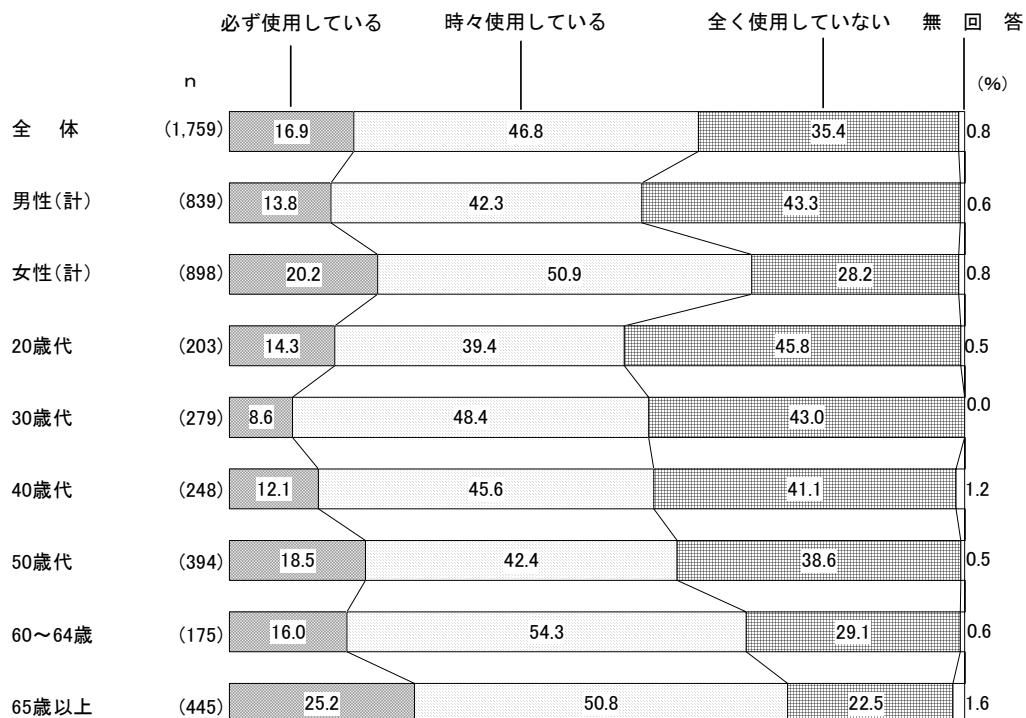
買い物袋（マイバッグ）の使用について聞いたところ、「時々使用している」が4割台半ば（46.8%）と最も高く、ついで「全く使用していない」（35.4%）、「必ず使用している」（16.9%）と続いている。

（図4-6-1）

性別にみると、「必ず使用している」は女性の方が6.4ポイント高く、「時々使用している」を合わせた『使用している』でも15ポイント高くなっている。

年齢別にみると、高い年代ほど『使用している』が高くなっている傾向にある。（図4-6-2）

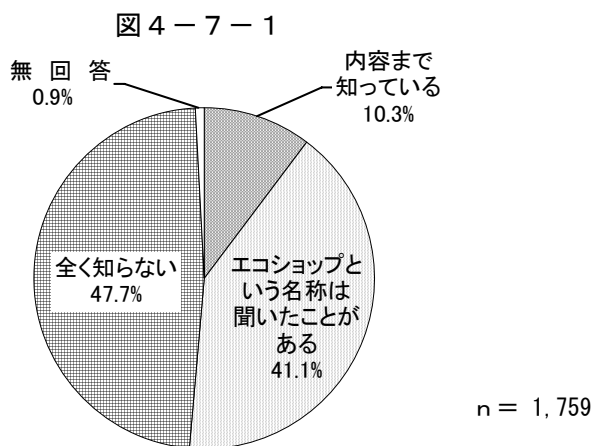
図4-6-2 買い物袋の使用—性別・年齢別



4-7 エコショップ認定制度の周知度

◇「全く知らない」が5割弱

問8 市ではレジ袋の削減や簡易包装等を推進し、ごみの発生抑制に取り組むスーパーなどの小売店を「エコショップ」として認定する制度をスタートしています。あなたは、このエコショップ認定制度を知っていますか。(○は1つだけ)

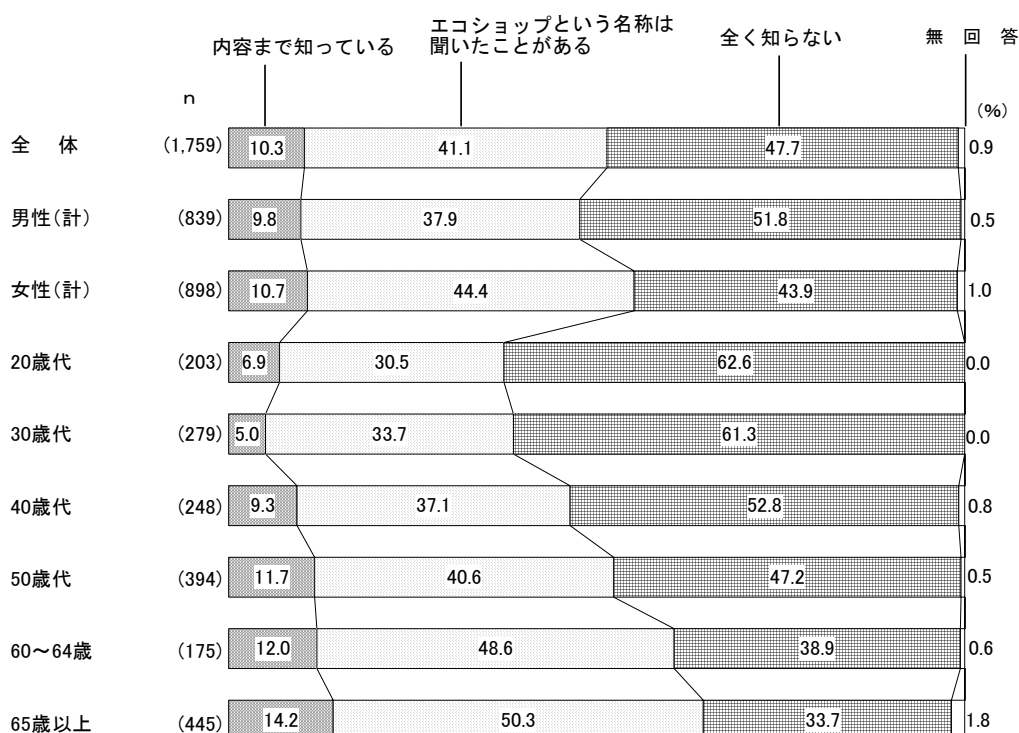


エコショップ認定制度について聞いたところ、「全く知らない」が5割弱(47.7%)と最も高く、ついで「エコショップという名称は聞いたことがある」(41.1%)、「内容まで知っている」(10.3%)と続いている。(図4-7-1)

性別にみると、「エコショップという名称を聞いたことがある」は女性の方が6.5ポイント高く、「全く知らない」は男性の方が7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「エコショップという名称を聞いたことがある」は、高い年代ほど割合が高い傾向にあり、65歳以上では5割(50.3%)を占めている。(図4-7-2)

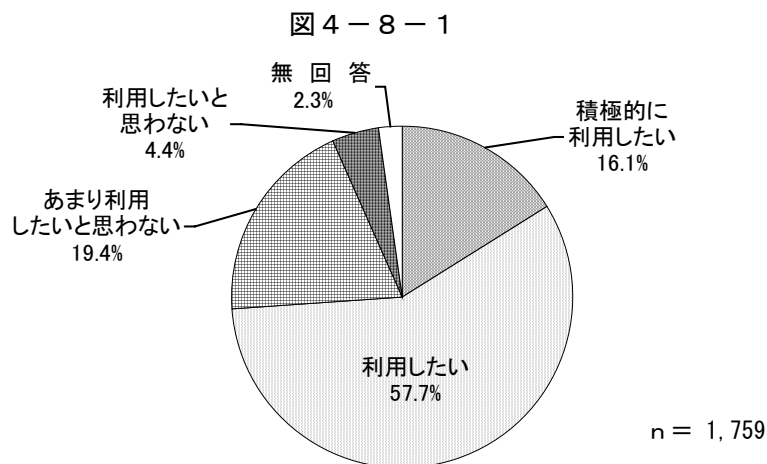
図4-7-2 エコショップ認定制度の周知度－性別・年齢別



4-8 エコショップの利用意向

◇『利用したい』が7割強

問9 あなたは、レジ袋の削減や簡易包装等を推進するエコショップを利用したいと思いますか。
(○は1つだけ)

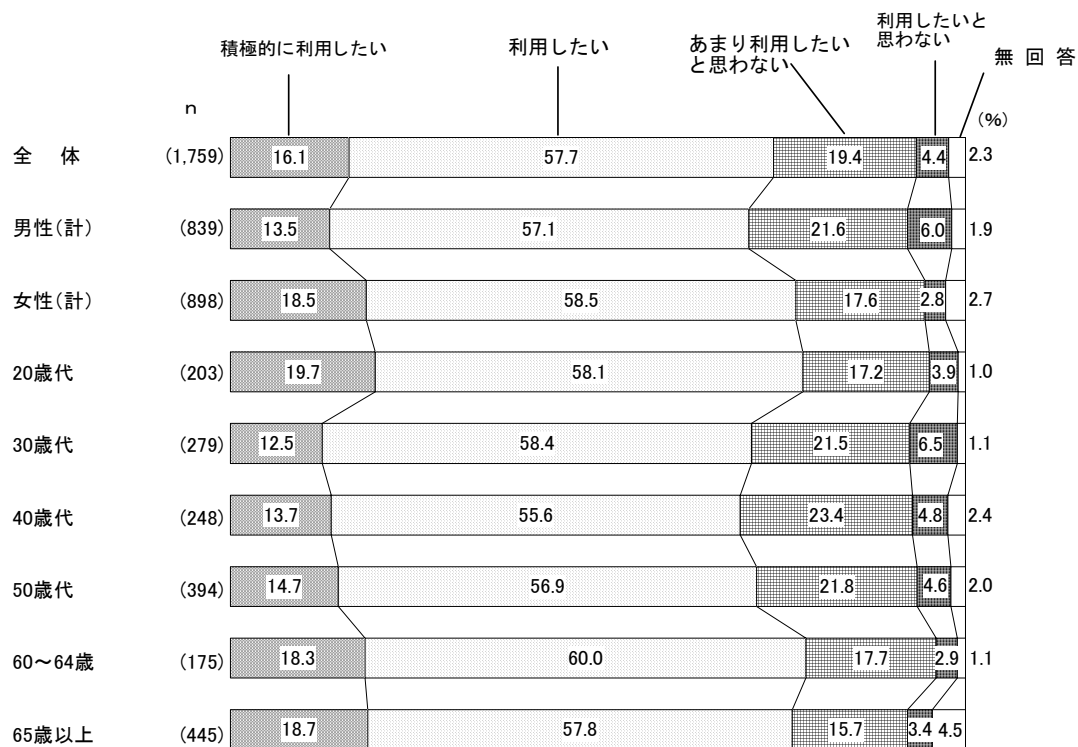


レジ袋の削減や簡易包装等を推進するエコショップの利用意向について聞いたところ、「利用したい」が6割強(57.7%)と最も高く、「積極的に利用したい」(16.1%)と合わせた『利用したい』は7割強(73.8%)となっている。(図4-8-1)

性別にみると、「積極的に利用したい」は女性の方が5.0ポイント高い。

年齢別にみると、「積極的に利用したい」は20歳代が最も高く2割近く(19.7%)となっている。また「積極的に利用したい」は、30歳代以降の年代では、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。(図4-8-2)

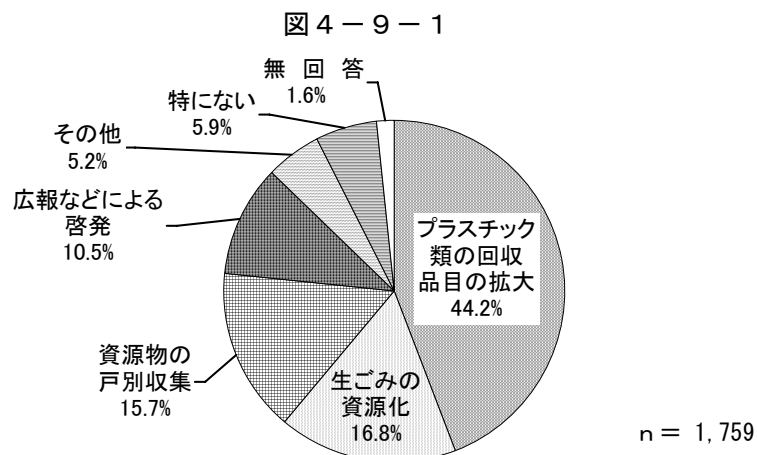
図4-8-2 エコショップの利用意向—性別・年齢別



4-9 ごみ減量や資源化を進めるために最も必要なこと

◇「プラスチック類の回収品目の拡大」が4割台半ば

問10 ごみ減量や資源化を進めるために、次のうち最も必要だと思うことは何ですか。
(○は1つだけ)

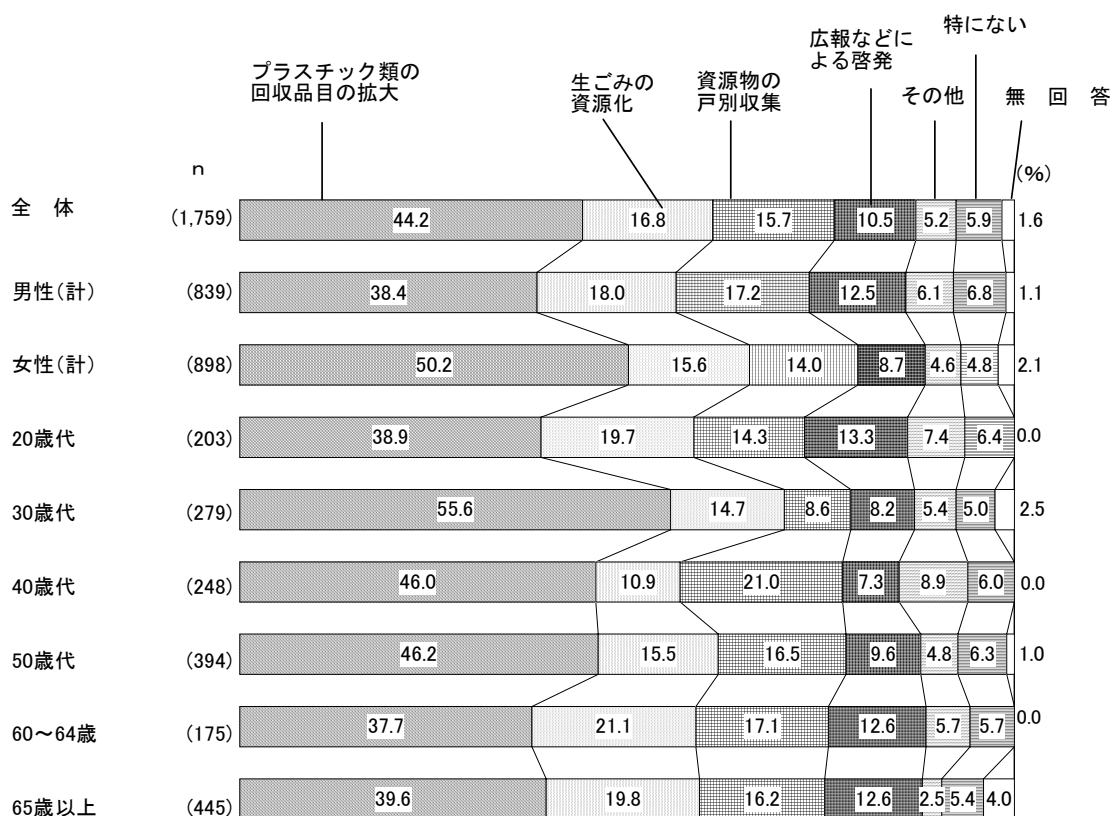


ごみ減量や資源化を進めるために最も必要と思うことについて聞いたところ、「プラスチック類の回収品目の拡大」が4割台半ば(44.2%)と最も高く、ついで「生ごみの資源化」(16.8%)、「資源物の戸別収集」(15.7%)と続いている。(図4-9-1)

性別でみると、「プラスチック類の回収品目の拡大」は女性の方が11.8ポイント高い。

年齢別でみると、「プラスチック類の回収品目の拡大」は30歳代で最も高く、5割台半ば(55.6%)となっている。(図4-9-2)

図4-9-2 ごみ減量や資源化を進めるために最も必要なこと-性別・年齢別



5. 保健衛生行政の現状と新しい『八王子市保健所(仮称)』について

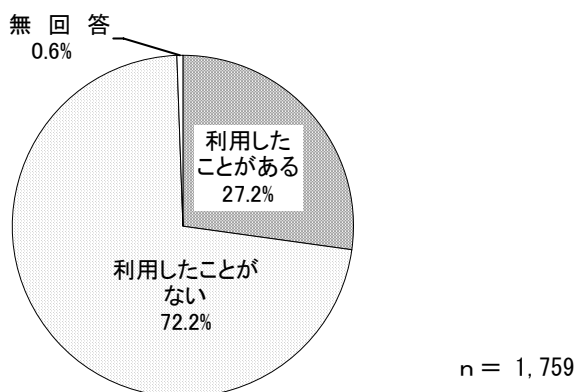
5-1 東京都八王子保健所の利用の有無

◇「利用したことがある」が3割弱

[問11 から 問12 までは現在の“東京都八王子保健所”（旭町13-18）に関する質問です。]

問11 あなたは、“東京都八王子保健所”を利用したことがありますか。（○は1つだけ）

図5-1-1



“東京都八王子保健所”の利用について聞いたところ、「利用したことがある」は3割弱（27.2%）であった。一方、「利用したことがない」は7割強（72.2%）とかなり高くなっている。（図5-1-1）

性別にみると、「利用したことがある」は女性の方が7.9ポイント高く、「利用したことがない」は男性の方が7.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用したことがある」は40歳代（34.3%）、50歳代（33.5%）で3割を超えているが、「利用したことがない」は20歳代で8割強（83.3%）で高くなっている。（図5-1-2）

居住地域別にみると、「利用したことがある」が加住・石川（北部地域）で3割台半ば（34.9%）で高い。一方、「利用したことがない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割強（83.5%）と高くなっている。（図5-1-3）

図5-1-2 東京都八王子保健所の利用の有無—性別・年齢別

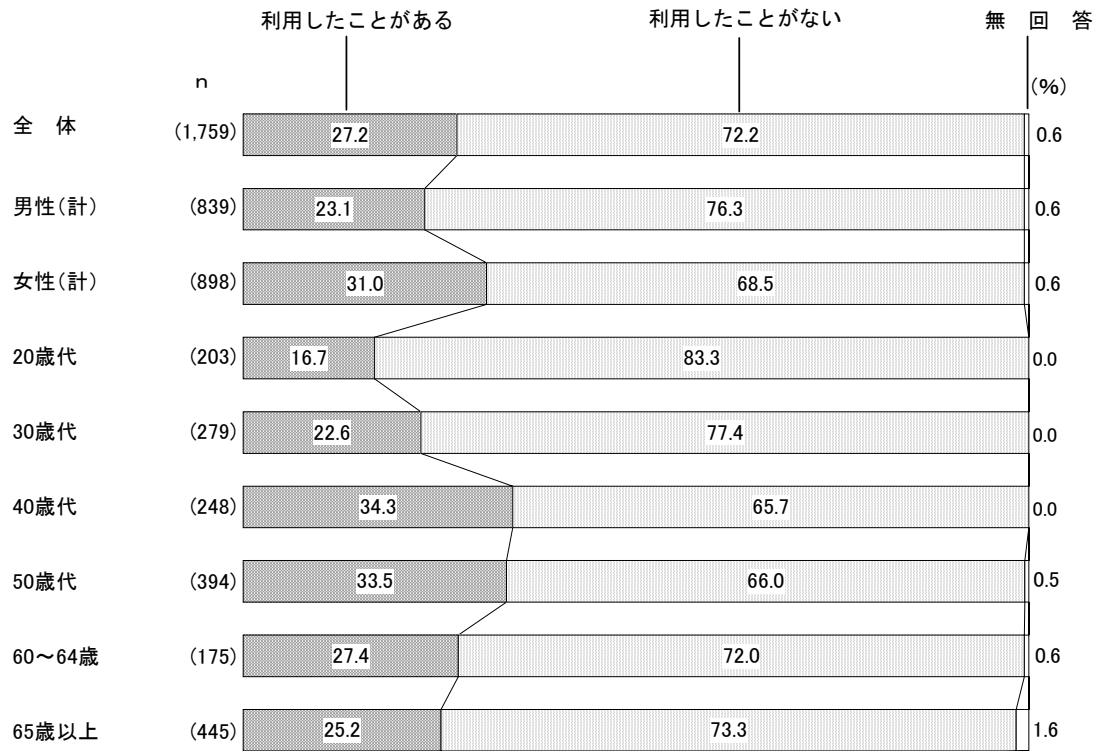
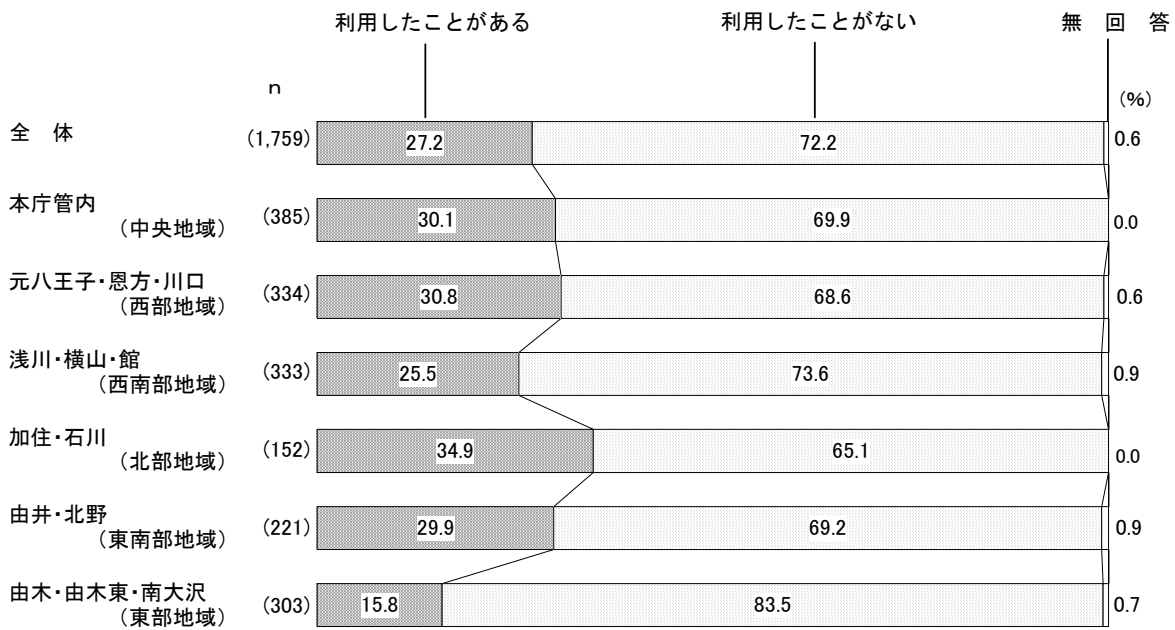


図5-1-3 東京都八王子保健所の利用の有無—居住地域別



5-2 東京都八王子保健所の利用目的

◇「各種免許(医師・調理師)などの申請・手続き」、「医療情報(診療所・歯科診療所等)に関する相談」、「難病に関する相談や講演会」などが1割強

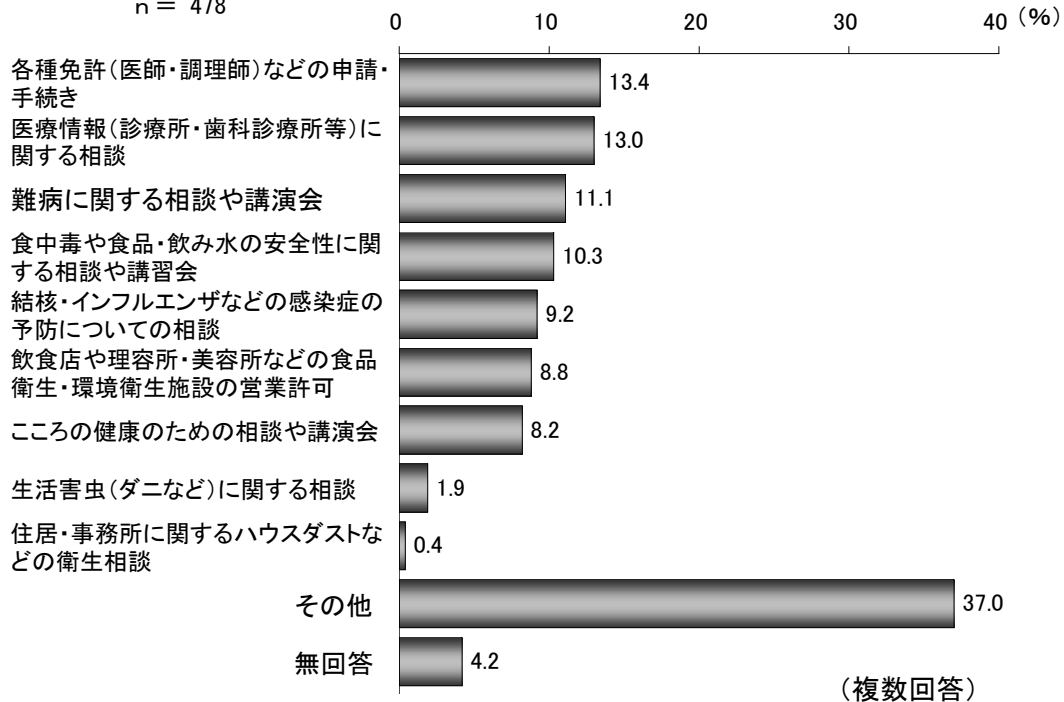
(問11で「1 利用したことがある」とお答えの方に)

問11-1 あなたは、どのような目的で“東京都八王子保健所”を利用しましたか。

(○はいくつでも)

n = 478

図5-2-1



“東京都八王子保健所”の利用の有無で「利用したことがある」と答えた人(478人)に、利用目的を聞いたところ、「各種免許(医師・調理師)などの申請・手続き」が1割強(13.4%)と最も高く、ついで「医療情報(診療所・歯科診療所等)に関する相談」(13.0%)、「難病に関する相談や講演会」(11.1%)と続いている。(図5-2-1)

性別にみると、「各種免許（医師・調理師）などの申請・手続き」は女性の方が 6.0 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「食中毒や食品・飲み水の安全性に関する相談や講習会」は、高い年代ほど割合が高い傾向にあり、65 歳以上では 2 割を超え（24.1%）、高くなっている。（図 5-2-2）

居住地域別にみると、「各種免許（医師・調理師）などの申請・手続き」は、加住・石川地域（北部地域）が 2 割（20.8%）となっているのに対し、由木・由木東・南大沢（東部地域）は 1 割にも満たない（6.3%）など、地域によってばらつきがある。

図 5-2-2 東京都八王子保健所の利用目的一性別・年齢別（上位 5 項目）

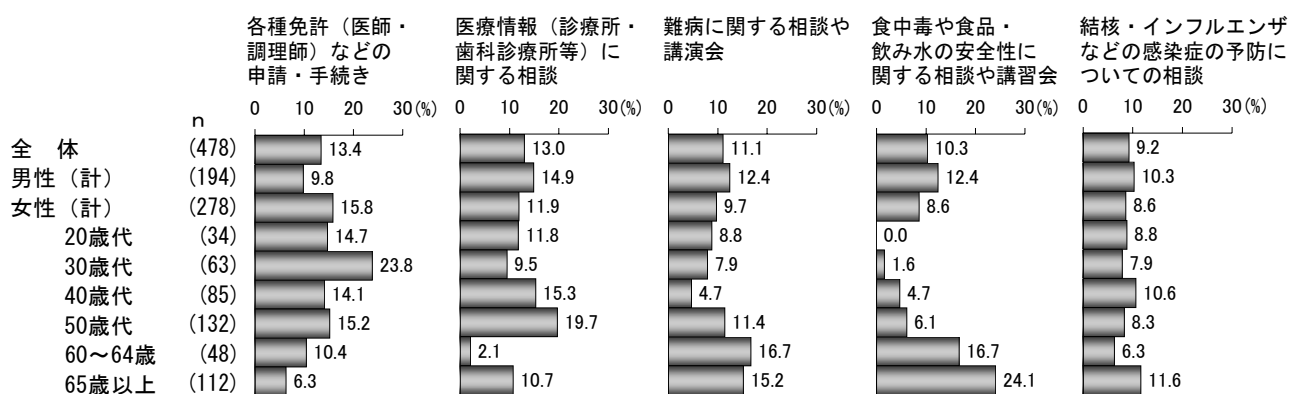
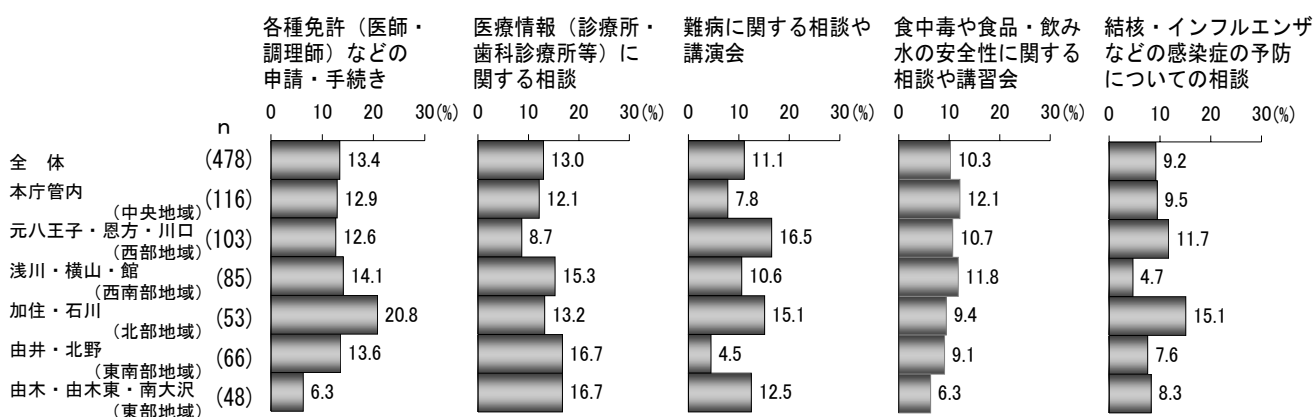


図 5-2-3 東京都八王子保健所の利用目的一居住地域別（上位 5 項目）

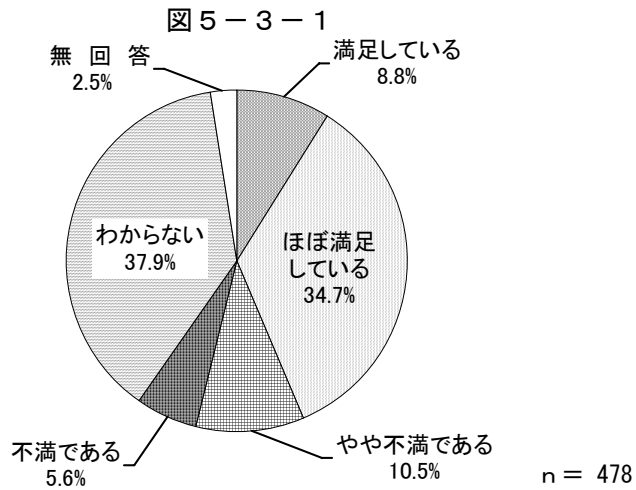


5-3 東京都八王子保健所の実施業務についての印象

◇『満足』が4割強

(問11で「1 利用したことがある」とお答えの方に)

問11-2 あなたは、“東京都八王子保健所”が実施している業務について、どのような印象を持っていますか。(○は1つだけ)



“東京都八王子保健所”の利用の有無で「利用したことがある」と答えた人(478人)に“東京都八王子保健所”の実施業務の印象について聞いたところ、「ほぼ満足している」が3割台半ば(34.7%)と高く、ついで「満足している」(8.8%)と合わせた『満足』は4割強(43.5%)となっている。(図5-3-1)

性別にみると、「やや不満である」と「不満である」を合わせた『不満』が、男性の方が女性よりも4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『満足』は65歳以上で5割台半ば（55.4%）と高くなっている。（図5-3-2）

居住地域別でみると、『満足』は本庁管内（中央地域）で5割を超え（52.6%）、高くなっている。

（図5-3-3）

図5-3-2 東京都八王子保健所の実施業務についての印象－性別・年齢別

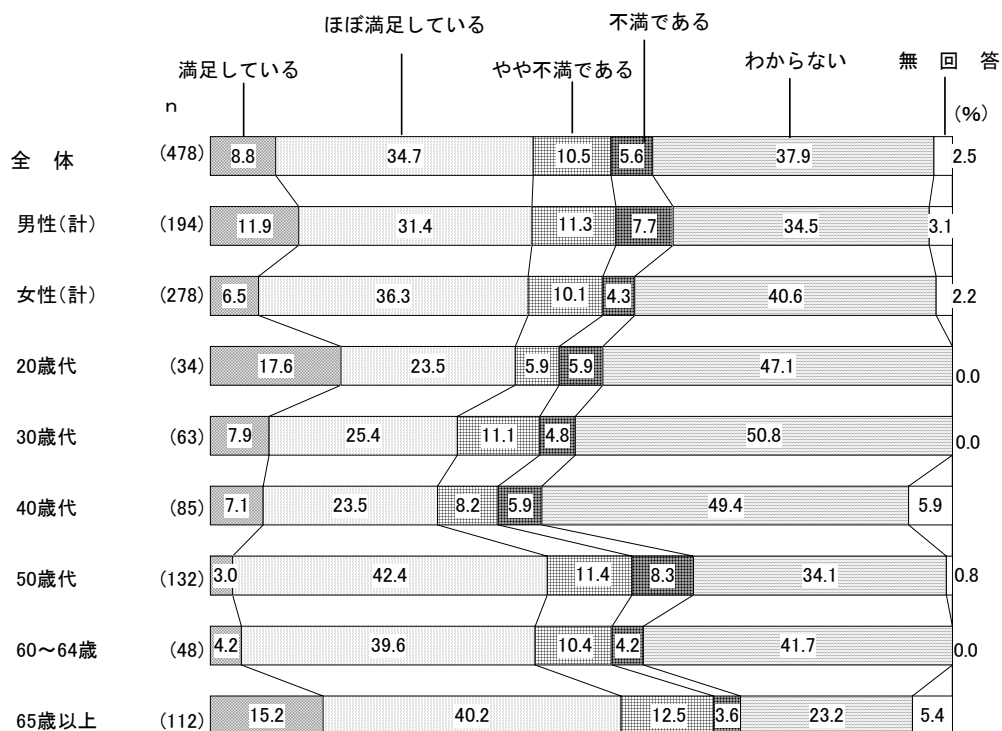
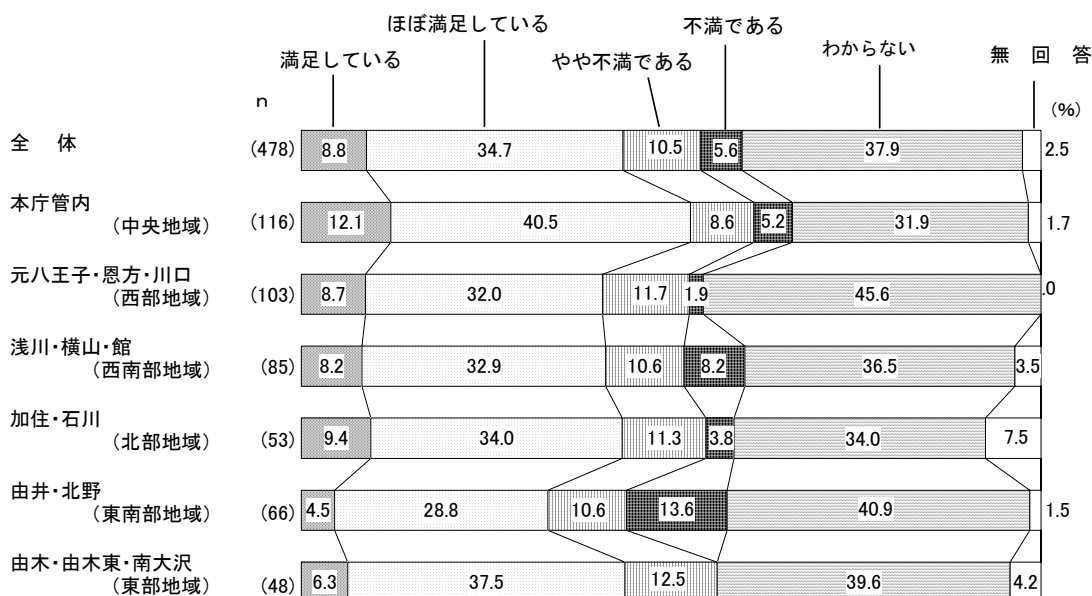


図5-3-3 東京都八王子保健所の実施業務についての印象－居住地域別



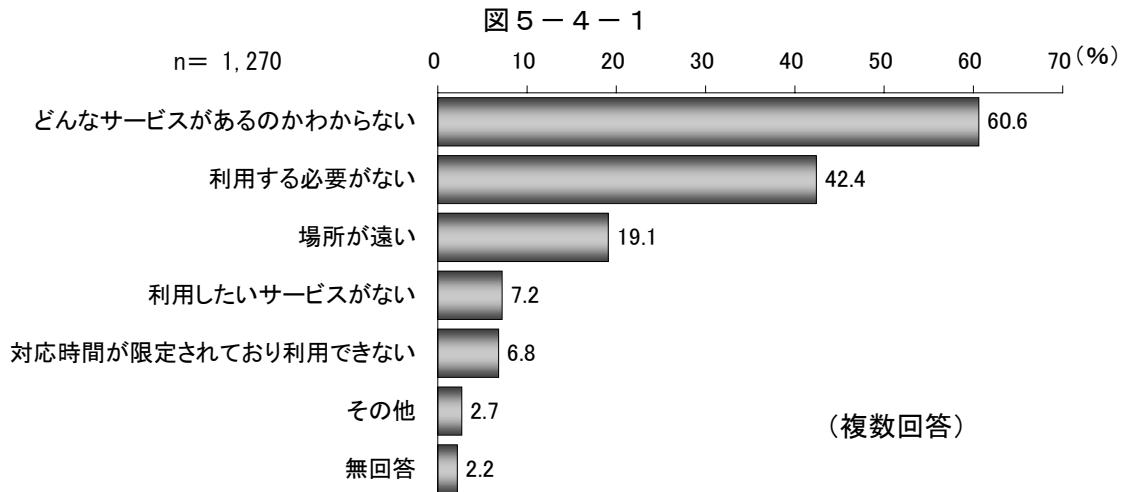
5-4 東京都八王子保健所を利用したことがない理由

◇「どんなサービスがあるのかわからない」が6割強と突出している

(問11で「2 利用したことがない」とお答えの方に)

問11-3 あなたが、「東京都八王子保健所」を利用したことがない理由はどのようなものですか。

(○はいくつでも)

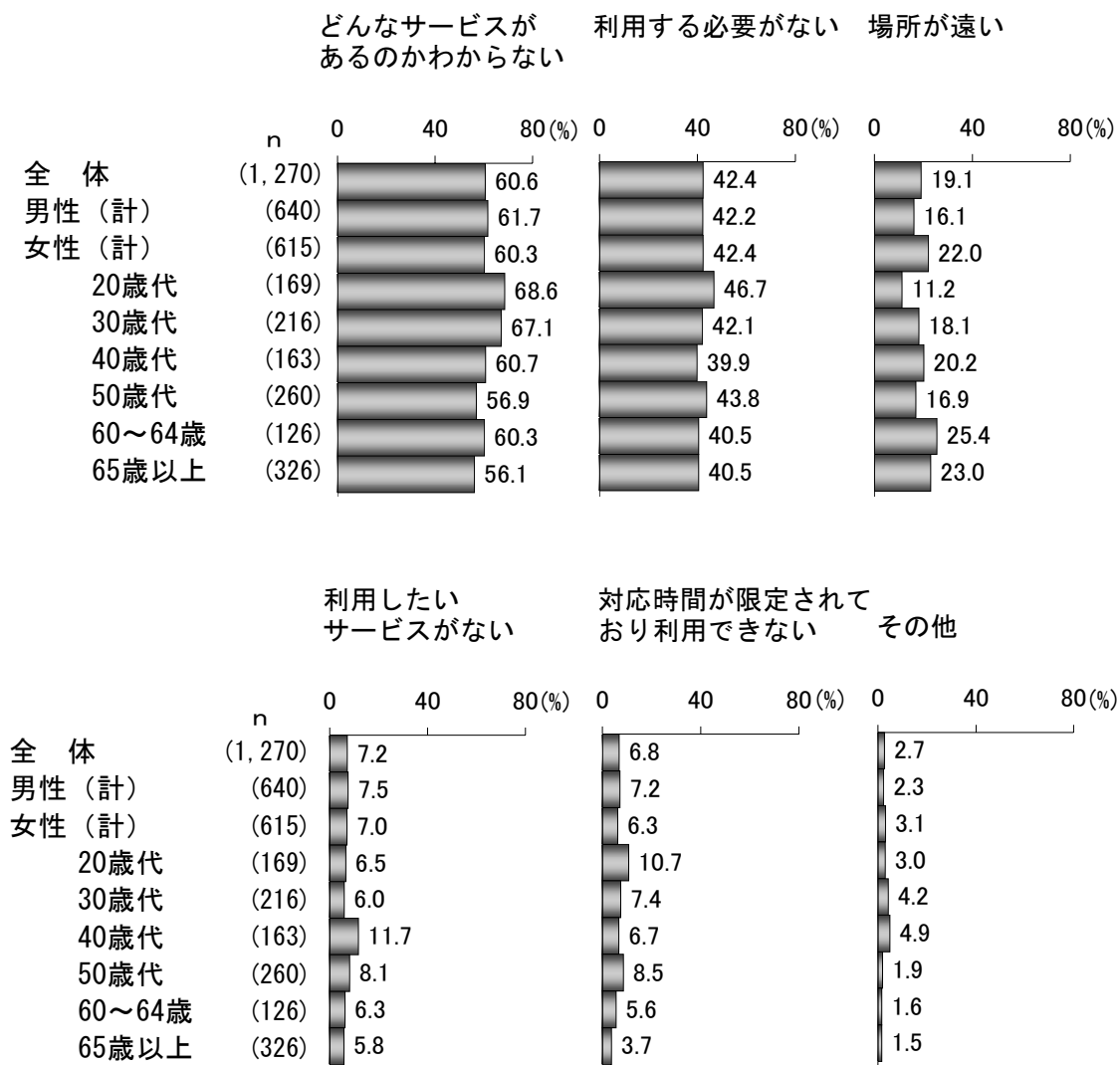


“東京都八王子保健所”の利用の有無で「利用したことがない」と答えた人(1,270人)に、利用したことがない理由を聞いたところ、「どんなサービスがあるのかわからない」(60.6%)が6割強と最も高く、ついで「利用する必要がある」(42.4%)、「場所が遠い」(19.1%)と続いている。(図5-4-1)

性別でみると、「場所が遠い」は女性の方が5.9ポイント高い。

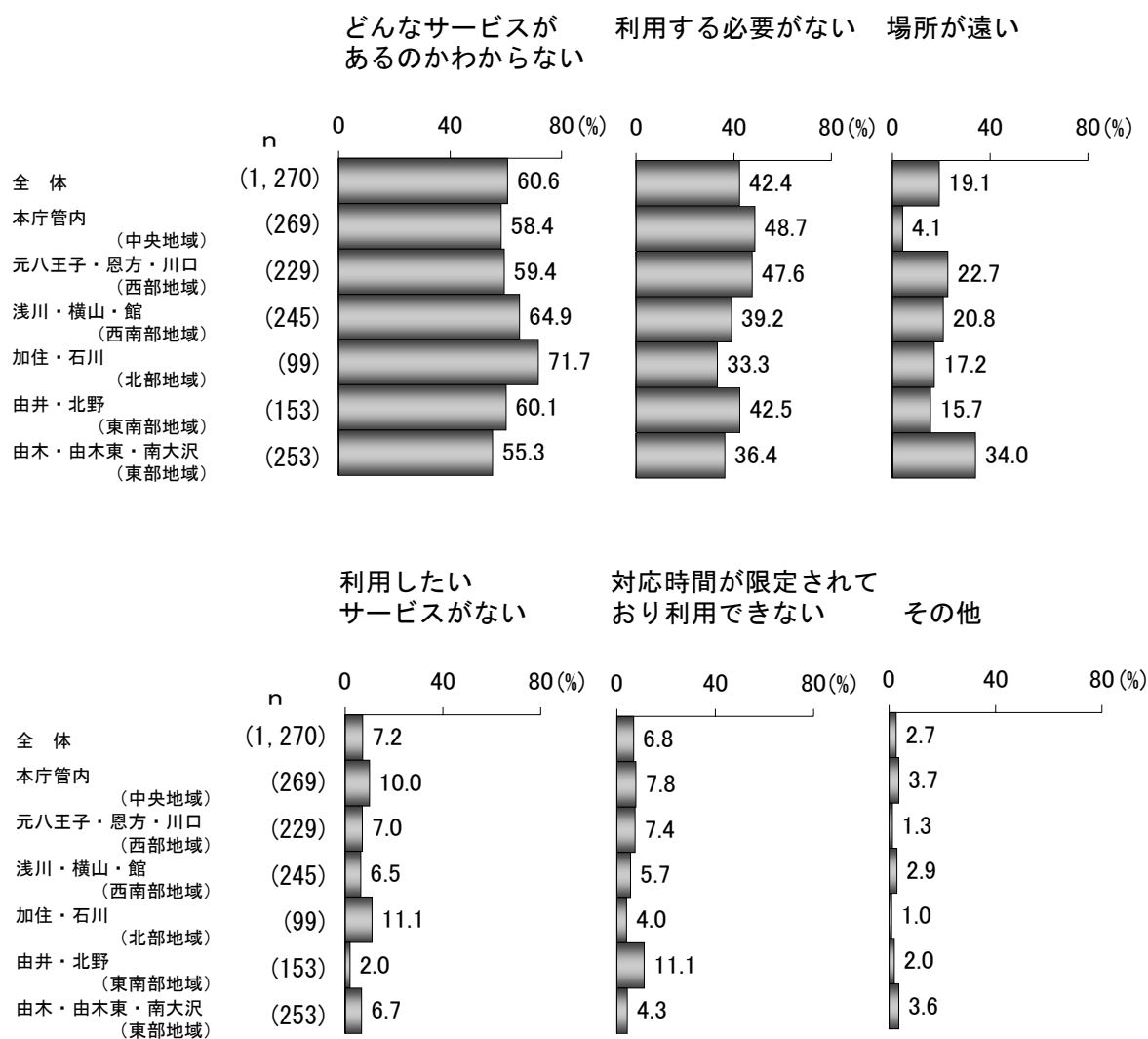
年齢別でみると、「どんなサービスがあるのかわからない」が20歳代（68.6%）、30歳代（67.1%）でそれぞれ7割弱あり、高い。また、「利用する必要がない」は各年代で4割前後と高く、「場所が遠い」は60～64歳（25.4%）、65歳以上（23.0%）ではそれぞれ2割強で高くなっている。（図5-4-2）

図5-4-2 東京都八王子保健所を利用したことがない理由—性別・年齢別



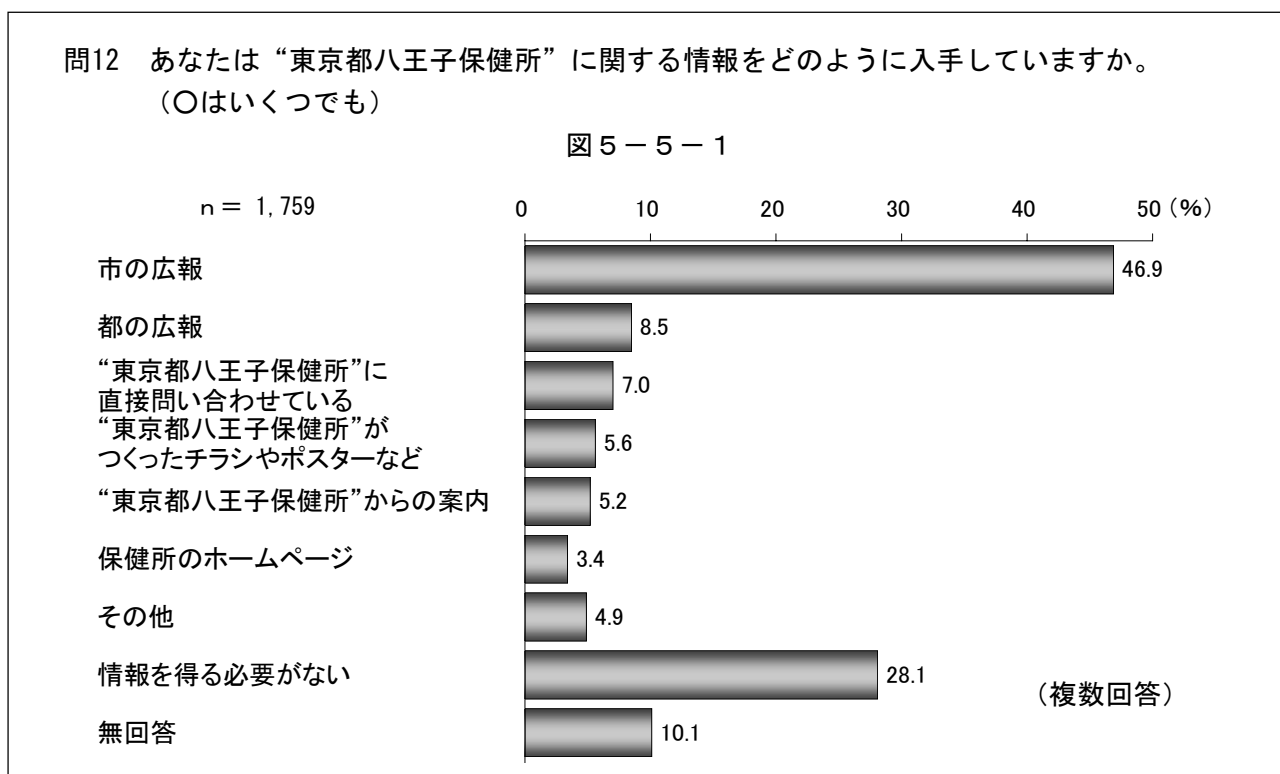
居住地域別でみると、「場所が遠い」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割強（34.0%）で高い。また、「どんなサービスがあるのかわからない」は加住・石川（北部地域）で7割（71.7%）を超えている。（図5-4-3）

図5-4-3 東京都八王子保健所を利用したことがない理由—居住地域別



5-5 東京都八王子保健所に関する情報入手方法

◇「市の広報」が4割台半ばと突出している



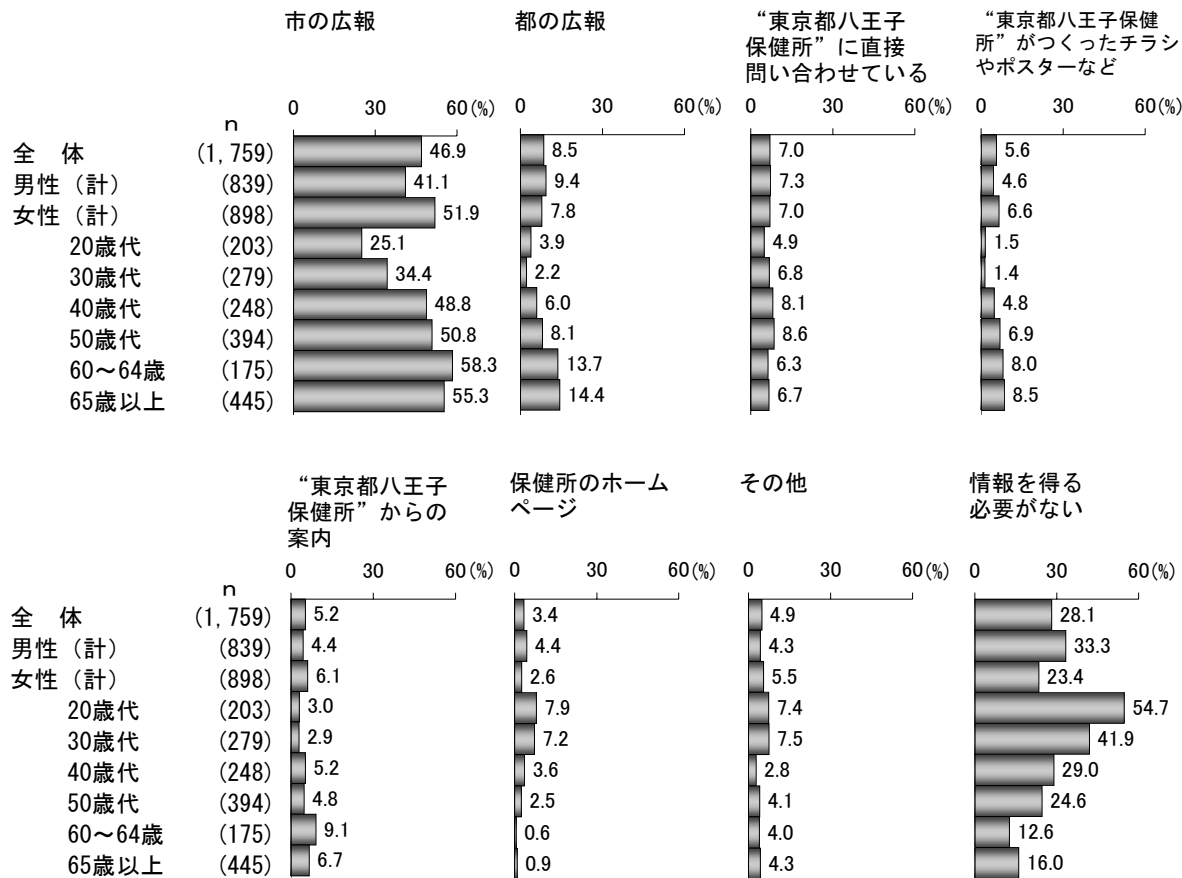
“東京都八王子保健所”に関する情報の入手方法について聞いたところ、「市の広報」が4割台半ば(46.9%)と最も高く、ついで「都の広報」(8.5%)、「“東京都八王子保健所”に直接問い合わせしている」(7.0%)と続いている。一方で、「情報を得る必要がない」は3割弱(28.1%)となっている。

(図 5-5-1)

性別にみると、「市の広報」は女性の方が男性よりも10.8ポイント高い。

年齢別にみると、「市の広報」は高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。一方、「情報を得る必要がない」は低い年代ほど割合が高くなる傾向にある。(図5-5-2)

図5-5-2 東京都八王子保健所に関する情報入手方法—性別・年齢別



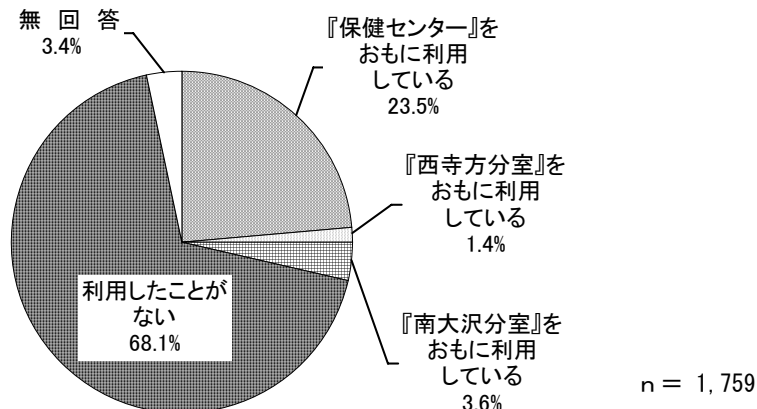
5-6 八王子市の『保健センター』の利用の有無

◇『保健センター』を主に利用した』人は2割強にとどまる

[問13 から 問14 までは、現在八王子市が設置している『保健センター』に関する質問です。]

問13 あなたは、八王子市の『保健センター』を利用したことがありますか。また、おもに利用する『保健センター』はどこですか（○は1つだけ）

図5-6-1



八王子市の『保健センター』の利用の有無について聞いたところ、「『保健センター』をおもに利用している」は2割強(23.5%)となっている一方で、「利用したことがない」は7割弱(68.1%)と高くなっている。(図5-6-1)

性別にみると、「『保健センター』をおもに利用している」は、女性の方が9.7ポイント高い。

年齢別にみると、「『保健センター』をおもに利用している」は30歳代が一番割合が高く、3割台半ば(35.8%)となっている。(図5-6-2)

居住別にみると、「『保健センター』をおもに利用している」は加住・石川(北部地域)が3割台半ば(35.5%)で一番割合が高い。また、由木・由木東・南大沢(東部地域)は「『保健センター』をおもに利用している」の割合がもっとも低く、1割にも満たない(4.6%)のに対し、「『南大沢分室』を利用している」は2割弱(19.5%)で、高くなっている。(図5-6-3)

図5-6-2 八王子市の『保健センター』の利用の有無—性別・年齢別

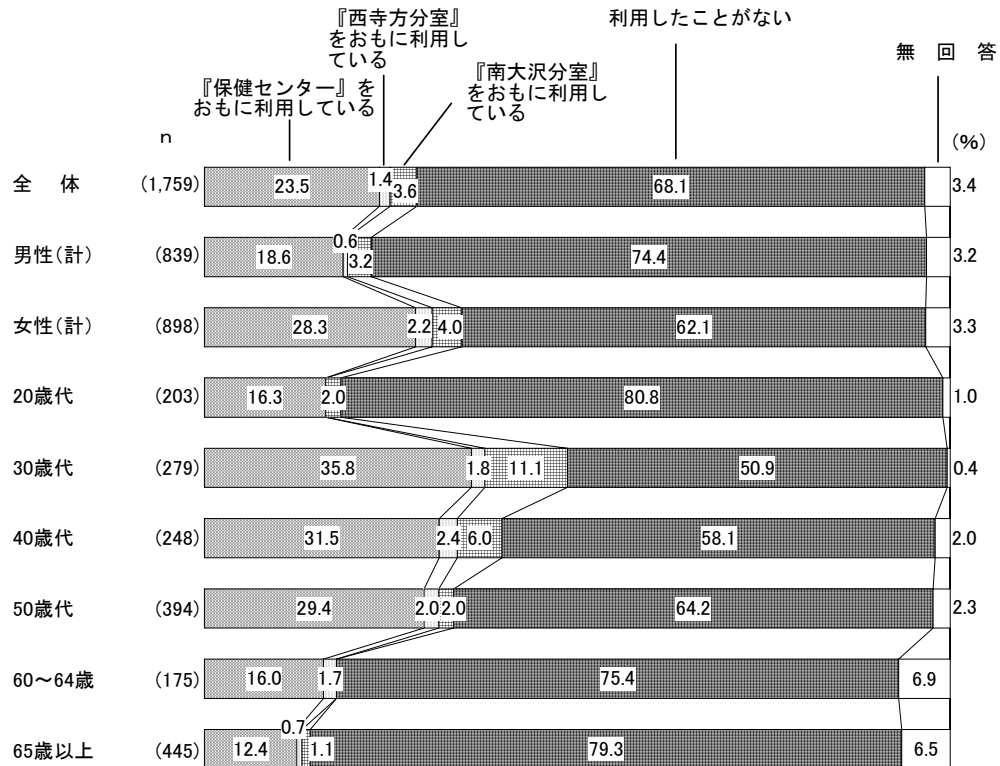
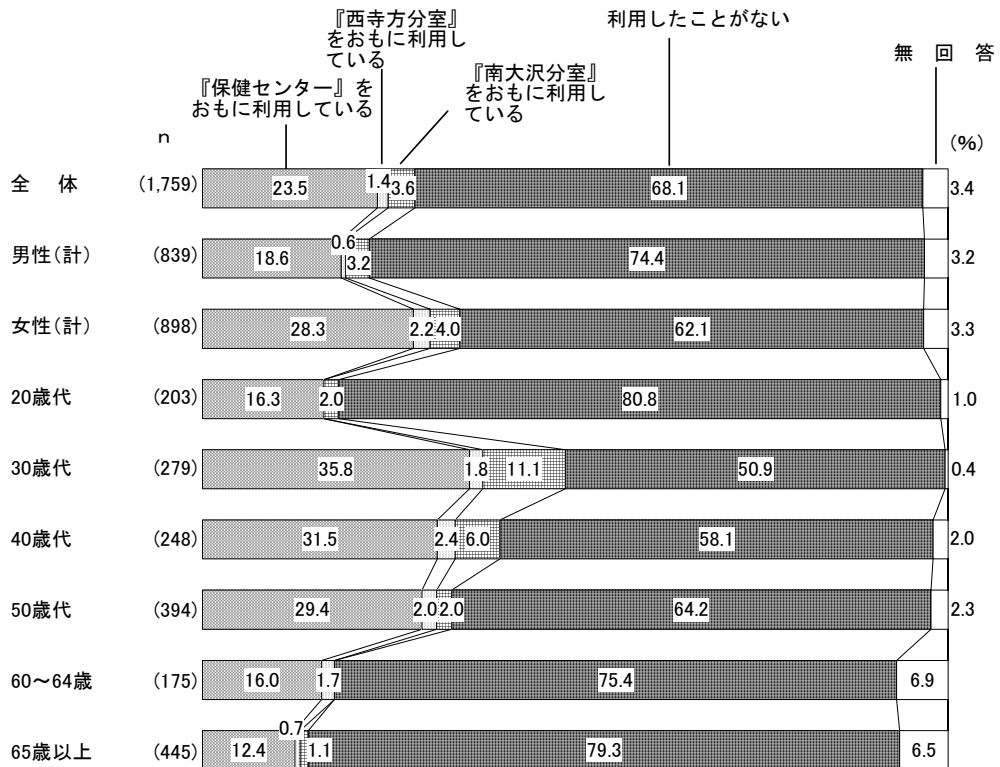


図5-6-3 八王子市の『保健センター』の利用の有無—居住地域別



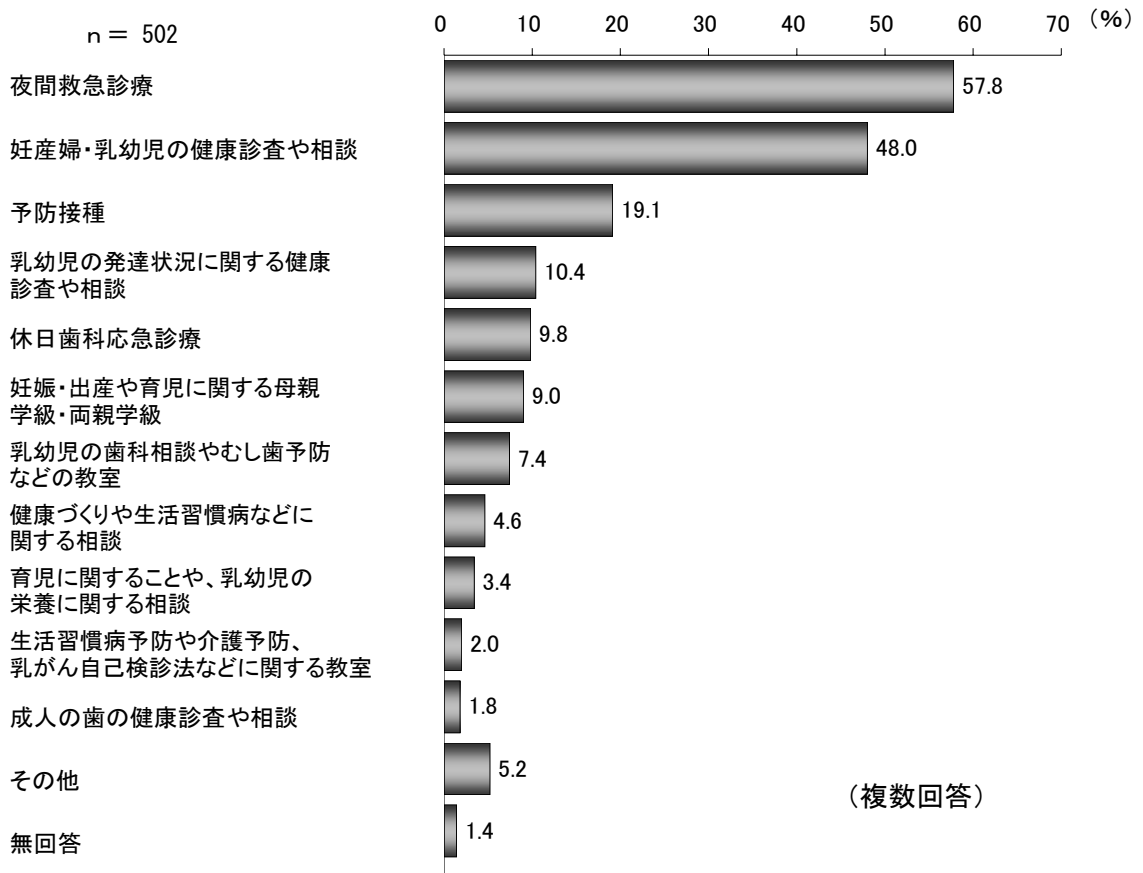
5-7 『保健センター』の利用目的

◇「夜間救急診療」が6割弱

(問13で「1」から「3」とお答えの方に)

問13-1 あなたは、どのような目的で『保健センター』を利用しましたか。(〇はいくつでも)

図5-7-1



八王子市の『保健センター』の利用の有無で「『保健センター』をおもに利用している」または「『西寺方分室』をおもに利用している」、「『南大沢分室』をおもに利用している」と答えた人(502人)に、利用目的を聞いたところ、「夜間救急診療」が6割弱(57.8%)と最も高く、ついで「妊産婦・乳幼児の健康診査や相談」(48.0%)、「予防接種」(19.1%)、「乳幼児の発達状況に関する健康診査や相談」(10.4%)と続いている。(図5-7-1)

性別でみると、「妊産婦・乳幼児の健康診査や相談」は、女性の方が14.1ポイント高い。

年齢別でみると、「夜間救急診療」は50歳代が7割を超え（72.7%）、「妊産婦・乳幼児の健康診査や相談」は30歳代が8割を超え（80.9%）、それぞれ高くなっている。（図5-7-2）

居住地域別でみると、「夜間救急診療」はほとんどの地区で5割を超えているが、由木・由木東・南大沢（東部地域）は2割にも満たず（16.4%）、低くなっている。（図5-7-3）

図5-7-2 『保健センター』の利用目的—性別・年齢別（上位5項目）

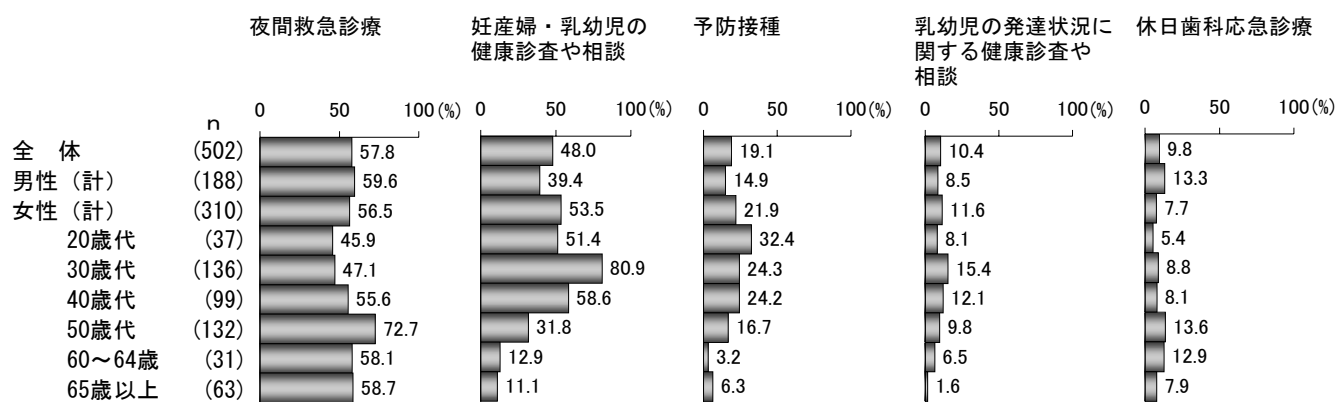
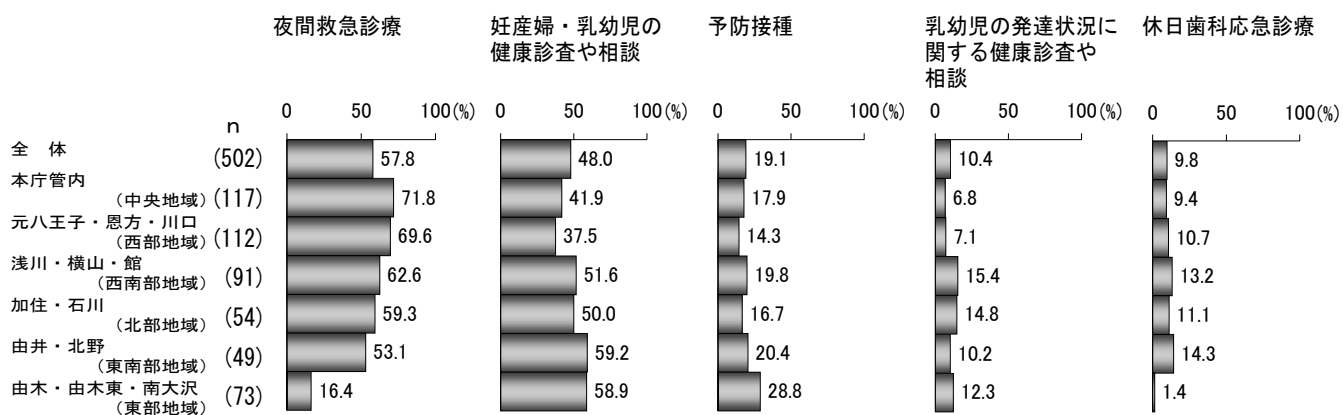


図5-7-3 『保健センター』の利用目的—居住地域別（上位5項目）



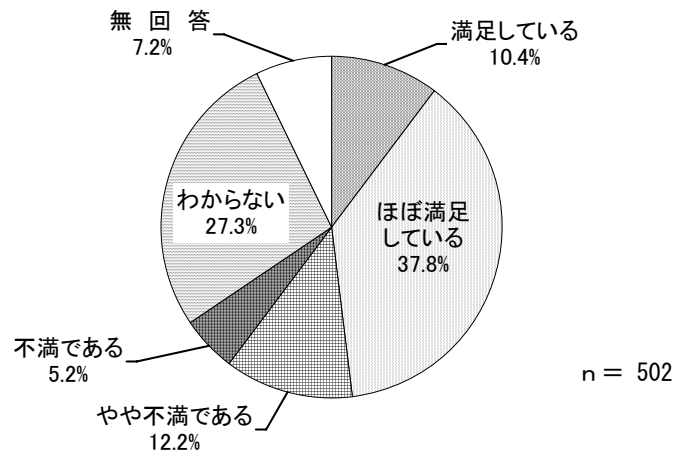
5-8 『保健センター』の実施業務に対する印象

◇「ほぼ満足している」が4割弱

(問13で「1」から「3」とお答えの方に)

問13-2 あなたは、八王子市の『保健センター』が実施している業務について、どのような印象を持っていますか。(○は1つだけ)

図5-8-1



八王子市の『保健センター』の利用の有無で「『保健センター』をおもに利用している」または「『西寺方分室』をおもに利用している」、「『南大沢分室』をおもに利用している」と答えた人(502人)に、『保健センター』の実施業務について聞いたところ、「ほぼ満足している」が4割弱(37.8%)と最も高く、「満足している」(10.4%)と合わせた『満足』は5割弱(48.2%)となっている。(図5-8-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「満足している」は20歳代で2割を超え(24.3%)、『満足』でも5割台半ば(56.7%)と高くなっている。また、50歳代は「満足している」が1割にも満たず(1.5%)、極めて低いものの、「ほぼ満足している」(50.8%)と合わせた『満足』は5割超(52.3%)で高くなっている。

(図5-8-2)

図 5-8-2 『保健センター』の実施業務に対する印象—性別・年齢別

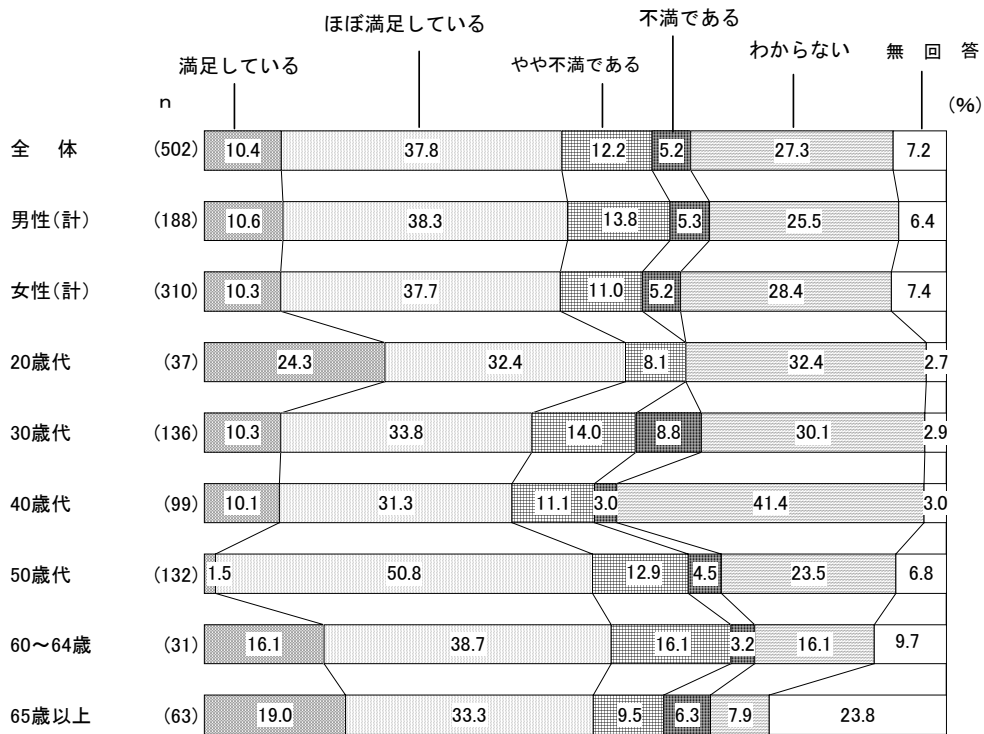
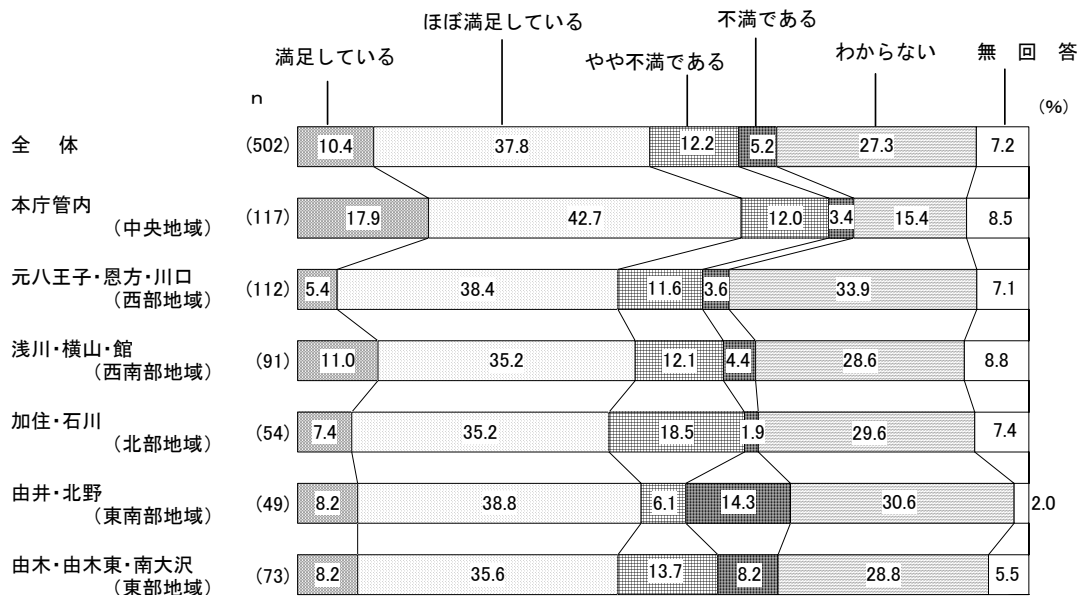


図 5-8-3 『保健センター』の実施業務に対する印象—居住地域別

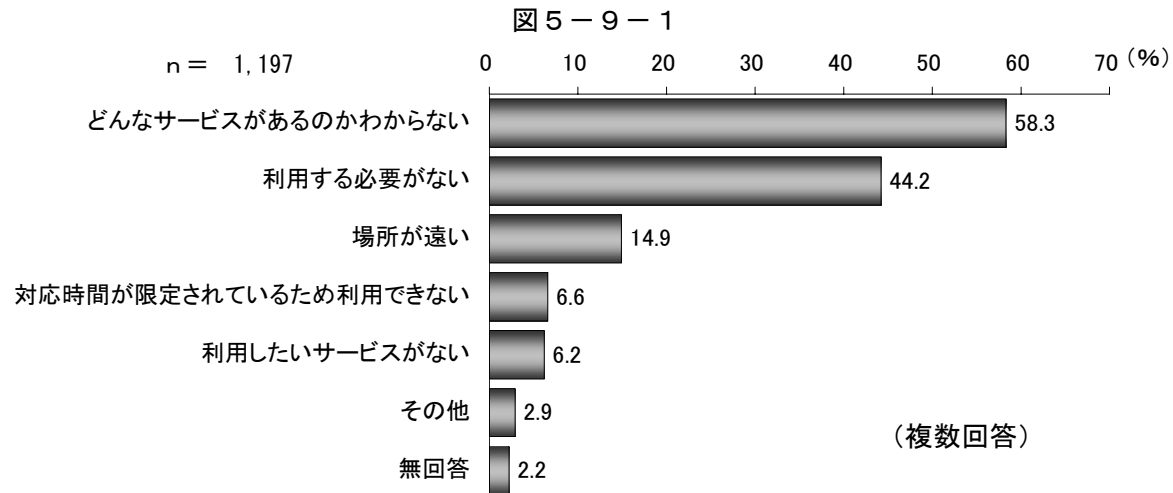


5-9 『保健センター』を利用したことがない理由

◇「どんなサービスがあるのかわからない」が6割弱

(問13で「4 利用したことがない」とお答えの方に)

問13-3 あなたが、『保健センター』を利用したことがない理由はどのようなものですか。
(〇はいくつでも)



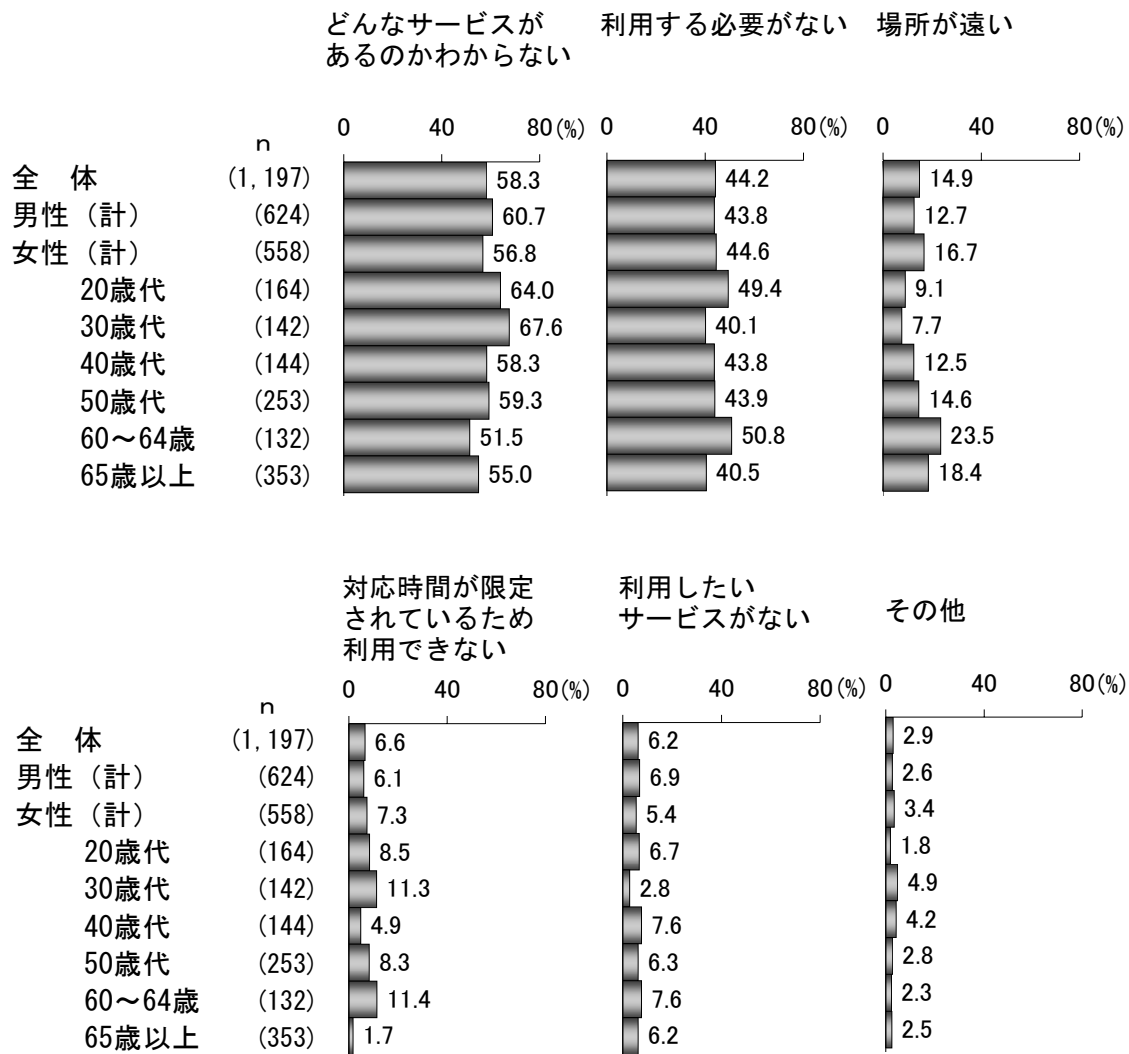
八王子市の『保健センター』の利用の有無で「利用したことがない」と答えた人(1,197人)に、利用したことがない理由を聞いたところ、「どんなサービスがあるのかわからない」が6割弱(58.3%)と最も高く、ついで「利用する必要がない」(44.2%)、「場所が遠い」(14.9%)と続いている。

(図5-9-1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

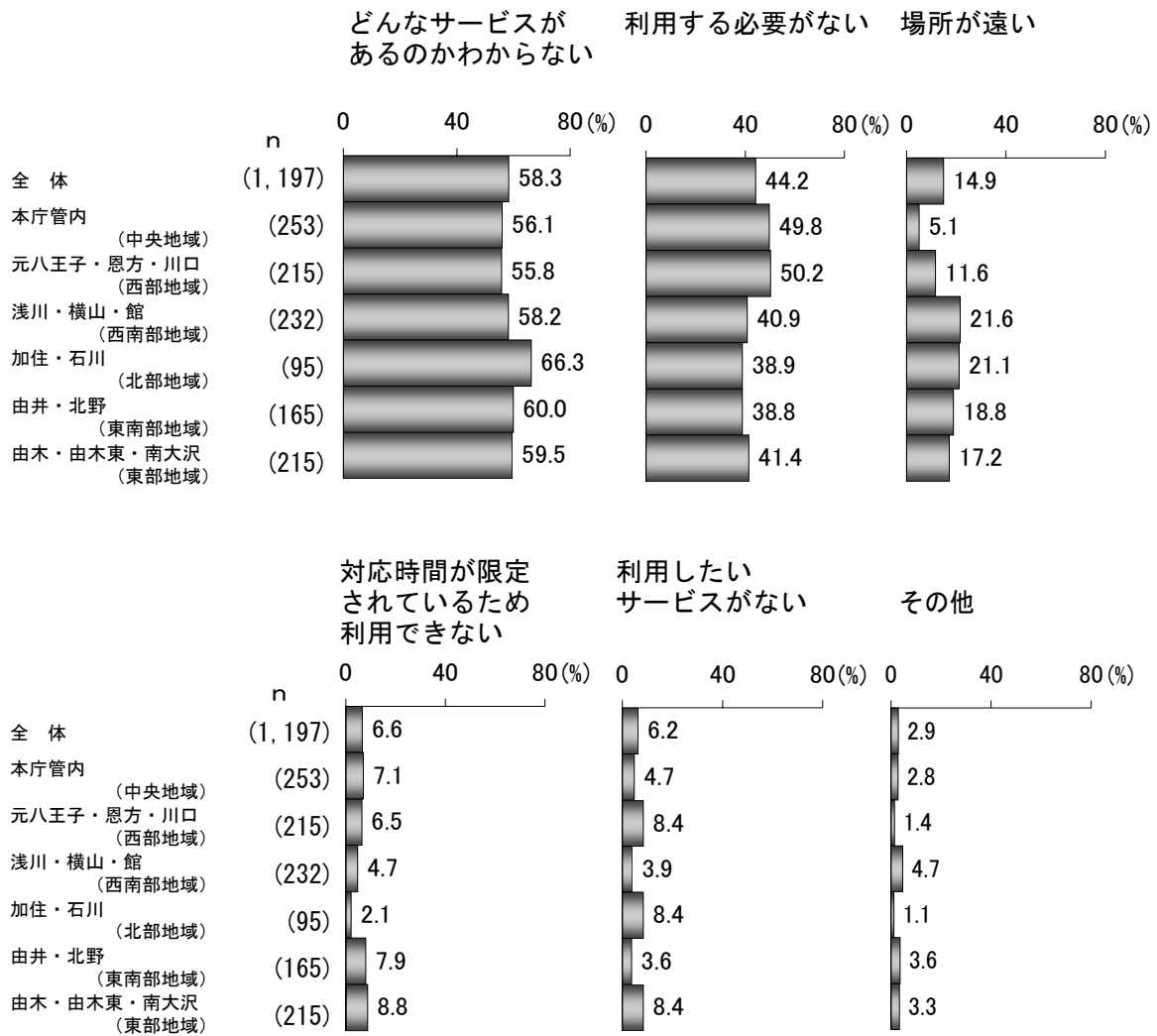
年齢別にみると、「どんなサービスがあるのかわからない」が30歳代で6割台半ばを超えて(67.6%)高く、20歳代も6割を超えて(64.0%)高い。また、「利用する必要がない」は、20歳代と60~64歳の年代が約5割となっている。(図5-9-2)

図5-9-2 『保健センター』を利用したことがない理由—性別・年齢別



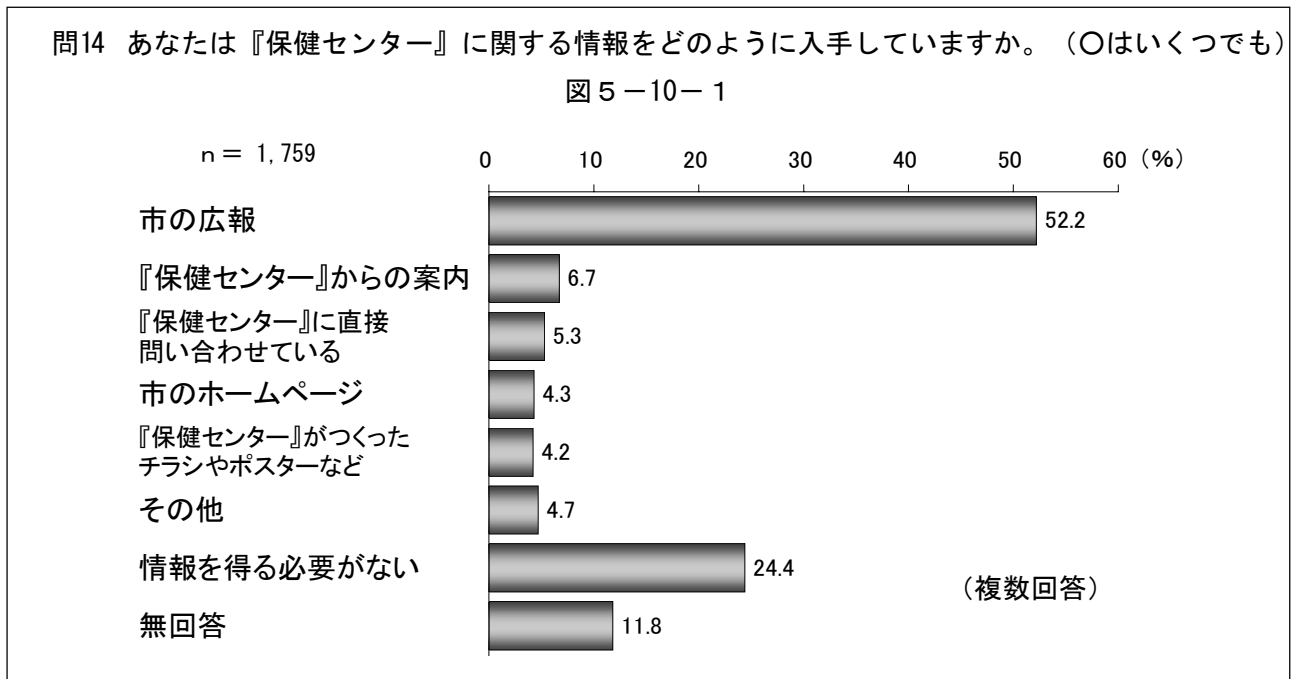
居住地域別にみると、「利用する必要がない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割（50.2%）、
 で高い。また、本庁管内（中央地域）も5割弱（49.8%）と高くなっている。（図5-9-3）

図5-9-3 『保健センター』を利用したことがない理由—居住地域別



5-10 『保健センター』に関する情報の入手方法

◇「市の広報」が5割強と突出している

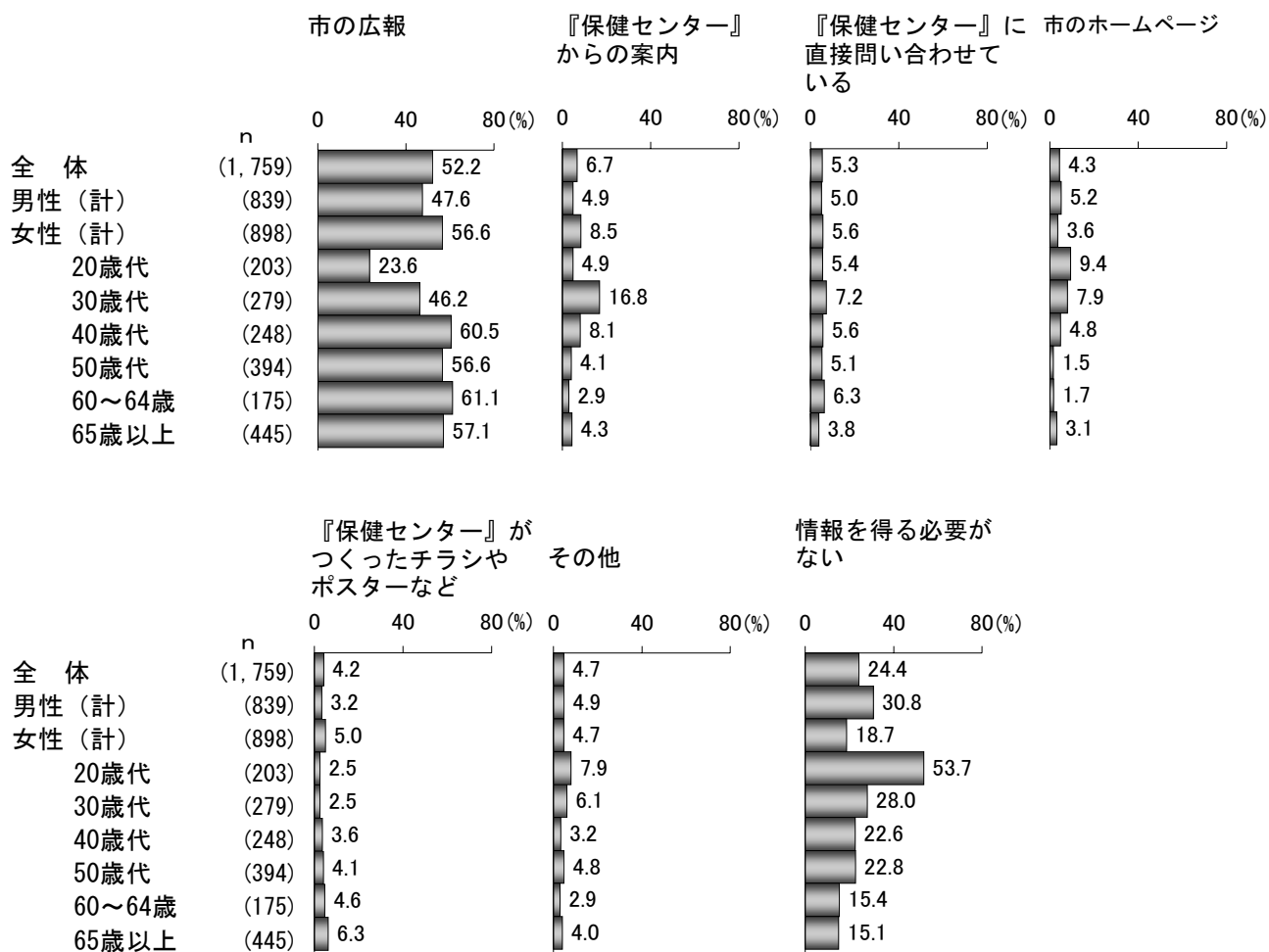


『保健センター』に関する情報の入手方法について聞いたところ、「市の広報」が5割強(52.2%)と最も高く、『保健センター』からの案内(6.7%)と続いている。一方、「情報を得る必要がない」は2割台半ば(24.4%)となっている。(図5-10-1)

性別にみると、「市の広報」は女性の方が 9.0 ポイント高い。一方、「情報を得る必要がない」は男性の方が 12.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代は「市の広報」が 2 割強 (23.6%) にとどまっているのに対し、「情報を得る必要がない」は 5 割を超え (53.7%)、高くなっている。(図 5-10-2)

図 5-10-2 『保健センター』に関する情報の入手方法—性別・年齢別

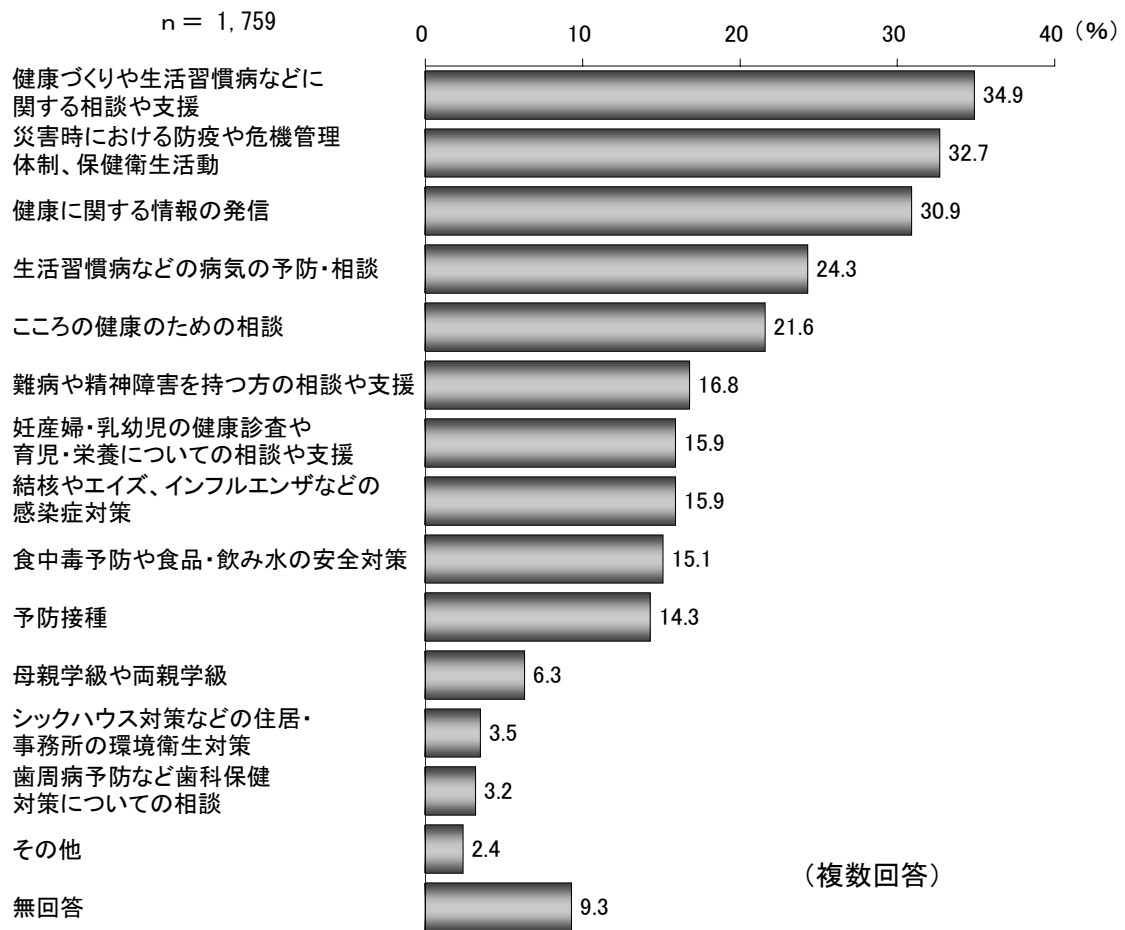


5-11 新しい『八王子市保健所(仮称)』で特に重視していきべきもの
 ◇「健康づくりや生活習慣病などに関する相談や支援」が3割台半ば

[問15 および 問16 は、平成19年4月以降、本市が運営する『八王子市保健所(仮称)』（旭町13-18 ※現在の“東京都八王子保健所”と場所は変わりません）についての質問です。]

問15 あなたは、新しい『八王子市保健所(仮称)』が行う保健サービスとして、特に何を重視していきべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図5-11-1



新しい『八王子市保健所(仮称)』が行う保健サービスとして、特に重視していきべきことについて聞いたところ、「健康づくりや生活習慣病などに関する相談や支援」が3割台半ば(34.9%)と最も高く、ついで「災害時における防疫や危機管理体制、保健衛生活動」(32.7%)、「健康に関する情報の発信」(30.9%)、「生活習慣病などの病気の予防・相談」(24.3%)と続いている。(図5-11-1)

性別にみると、「こころの健康のための相談」は女性の方が6.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「こころの健康のための相談」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20歳代が3割台半ば（36.0%）と高い。また、「健康づくりや生活習慣病などに関する相談や支援」は、65歳以上が4割を超え（41.6%）高く、「妊産婦・乳幼児の健康診査や育児・栄養についての相談や支援」は、30歳代が3割強（34.4%）と高くなっている。（図5-11-2）

図5-11-2 新しい『八王子市保健所(仮称)』で特に重視していくべきもの—性別・年齢別

